令和６（2024)年度

シラバス

- １年次 -

科目№	BCS01-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	心理学	担当教員 E-Mail	松尾　加代		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	人文科学系	必　修	2　単位	前　期（30h）
	作業療法学				
	言語聴覚学				

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	心理学の分野で研究されている各領域を概観する。心理学的なものの考え方、捉え方を学び、日常生活場面で生じる人間の行動の基本的なメカニズムを理解する。それらを通して、自己理解・他者理解を深めることを目指す。
学修目標 到達目標	1. 心理学の基礎的な知識を修得し、理解・説明することができる 2. 日常生活場面におけるさまざまな事象について、心理学の観点から解釈することができる 3. 心理学の知識を応用し、自己理解・他者理解を深める
対面授業の進め方	講義形式で行う。配布資料は重要個所が空欄になっているので、学習者がその空欄を埋めることで資料を完成させる。毎講義後に、感想や質問の提出を求める。質問の回答および補足説明は、次の講義の最初に行う。
遠隔授業の進め方	やむを得ず遠隔授業になった場合は、Microsoft office 365 の stream を使用して動画を配信する。動画視聴後、指定された課題を提出する。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30 分以上
1. イントロダクション：心理学とは	復習：自分の言葉で内容をまとめる	
2. 心理学研究法	〃	
3. 知覚：色、形、大きさ、動きの知覚	〃	
4. 注意：選択的注意	〃	
5. 記憶１：記憶の仕組み、感覚記憶～短期記憶	〃	
6. 記憶２：長期記憶/　認知と感情	〃	
7. 思考：推論、判断、意思決定	〃	
8. 言語	〃	
9. 学習①：古典的条件づけ、オペラント条件づけ	〃	
10. 学習②：社会的学習、動機づけ	〃	
11. 社会心理学	〃	
12. 発達心理学	〃	
13. 人格心理学	〃	
14. 健康心理学	〃	
定 期 試 験		
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	■ 課題・小テスト　30%	□ レポート　%	■ 定期試験　70%	□ その他　%
	基準等	授業内課題を呈示する。		定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	特に指定しない			
参考図書				

履修要件等	特になし		
オープンな 教育リソース			
研究室	1号館4階　第4研究室	オフィスアワー	毎週水曜日　16：20 ～ 17：50

科目№	BCS02-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	日本語表現Ⅰ	担当教員 E-Mail	山﨑　澄子、磯田　恵子、明治　裕子		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学 作業療法学 言語聴覚学	人文科学系	必　修	1　単位	前期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	高等学校で勤務経験のある教員がその経験を活かして、日本語表現の基本的知識、正確な文章表現についての講義を行う。
授業内容の要約	本学のカリキュラム・ポリシーである「基礎的な科目を学びながら、豊かな人間性と広い教養を養う」（1年次）を達成するため、文章表現のための基礎的な知識を学び、実践的な場面での日本語表現方法を学習する科目である。
学修目標 到達目標	1.　文章表現のための基礎的知識を理解し、適切に活用できる。 2.　より正確で、わかりやすい文章を書くことができる。 3.　目的に沿った方法で、実際的な日本語表現（話す・書く）ができる。
対面授業の進め方	少人数クラスを編成し、講義、演習、発表を通して、大学でのレポートや小論文作成のための文章作りもできるよう指導する。提示された予習・復習・課題等も含め、能動的に学習を進めさせる。
遠隔授業の進め方	基本的には対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、terms を利用した授業の LIVE 配信を行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修	60分以上
1.　オリエンテーション 大学とは何か、高等学校における学習と大学における学問の違い、大学でレポートを書く際のマナー(p2-9)	演習 01(p82-83)・原稿用紙の使い方	
2.　原稿用紙の使い方、常体で書く(p10-15)	演習 01(p84-85)	
3.　話し言葉を混入しない、「思う」で終わらない(p16-19)	演習 02(p87)・「自己を語る」	
4.　文のねじれ、呼応表現 (p20-23)	多様なねじれ	
5.　日本語文章におけるくぎり符号の使い方、外国語の符号は使わない(p24-28)	説明文	
6.　自分の文章と他人の文章を区別する、引用元・引用部分の書き方(p29-33)	要約文	
7. 要約のルール、参考資料の挙げ方・注の付け方(p34-38)		
定 期 試 験　(期 末 レ ポ ー ト)		
8. 総括およびフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	□レポート　20　%	□定期試験　70　%	□その他　10　%
	基準等		与えられた課題を講義内容の視点と絡めて考察しているかを評価する	授業内容全般についての理解度を評価する	授業中の取り組み状況を評価する

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	長尾佳代子・村上昌孝　編	「大学1年生のための日本語技法」	ナカニシヤ出版	2015
参考図書				
履修要件等				
オープンな教育リソース				
研究室	1号館1階　非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。	

科目№	BCS03-1R	授業形態	講義	開講年次	１年次
授業科目名	日本語表現Ⅱ	担当教員 E-Mail	山﨑　澄子、磯田　恵子、明治　裕子		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学 作業療法学 言語聴覚学	人文科学系	必　修	１　単位	後期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	高等学校で勤務経験のある教員がその経験を活かして、日本語表現の基本的知識、正確な文章表現についての講義を行う。
授業内容の要約	本学のカリキュラム・ポリシーである「基礎的な科目を学びながら、豊かな人間性と広い教養を養う」（１年次）を達成するため、文章表現のための基礎的な知識を学び、実践的な場面での日本語表現方法を学習する科目である。
学修目標 到達目標	1.　文章表現のための基礎的知識を理解し、適切に活用できる。 2.　より正確で、わかりやすい文章を書くことができる。 3.　目的に沿った方法で、実際的な日本語表現（話す・書く）ができる。
対面授業の進め方	少人数クラスを編成し、講義、演習、発表を通して、大学でのレポートや小論文作成のための文章作りもできるよう指導する。提示された予習・復習・課題等も含め、能動的に学習を進めさせる。
遠隔授業の進め方	基本的には対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、terms を利用した授業の LIVE 配信を行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修	60 分以上
1.　段落分けを行う、３部構成で書く(p40-47)　〈構成について〉	演習(演習問題③p90-91)	
2.　メモの取り方、接続語を使う（p48-51）　〈接続語〉	聞き取り要約文	
3.　問題提起を行う、根拠を示しながら書く、事実を客観的に書く(p52-56)　〈事実と意見〉〈意見文〉	演習(演習問題②P88-89)	
4.　敬語について理解する、第三者に向けて身内のことを述べる場合の敬語(p58-64)	敬語	
5.　電子的な活字文書の作成、改まった手紙の書き方(p65-73)	演習(演習問題④p92-93)	
6.　電子メールの書き方(p74-79)	小論文	
7.　全講義の振り返り		
定 期 試 験　(期 末 レ ポ ー ト)		
8.　総括およびフィードバック　(定期試験の講評・解説)		

成績評価方法					
	項目	□課題・小テスト　％	□レポート　20　％	□定期試験　70　％	□その他　10　％
	基準等		与えられた課題を講義内容の視点と絡めて考察しているかを評価する	授業内容全般についての理解度を評価する	授業中の取り組み状況を評価する

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	長尾佳代子・村上昌孝　編	「大学１年生のための日本語技法」	ナカニシヤ出版	2015
参考図書				
履修要件等				
オープンな教育リソース				
研究室	１号館１階　非常勤控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。	

科目№	BSS01-1E	授業形態	講義	開講年次	１年次
授業科目名	社会学	担当教員 E-Mail	野村　和樹		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	社会科学系	選択必修	1　単位	後　期（16h）
	作業療法学				
	言語聴覚学				

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	「社会学とはどのような学問であるのか」という問いに答えを見つけられるように講義を進める。社会学の視点や方法論を理解するために古典的学説やいくつかの社会現象へのアプローチを紹介する。事例を用いて社会学的アプローチを実際に試みる。 　学生個々が社会学的アプローチを学ぶことにより、将来、多職種と連携する際に専門職としての自己の役割を明らかにすることにつながる。
学修目標 到達目標	1. 社会学の成り立ちから様々な学説が生まれた過程を理解することができる 2. 人間の行動と環境との関係を社会学的な視点で見ることができる 3. 日常的な社会現象を社会学的な問題として捉えることができる
対面授業の進め方	基本的には、講義形式で授業を進める。教科書は用いずレジュメを配布し授業を進めるので、A4 版のファイルを用意すること。
遠隔授業の進め方	遠隔授業になった場合は、時間割にある対面授業の時間に、ライブにて遠隔授業を行う。通信障害、正当な理由により、その時間に受講できなかった場合は、録画されたものを視聴しレポート提出を持って出席とする。したがって、原則授業の進め方は対面授業に同じ。レジュメについては、登校日に配付。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30 分以上
1. 社会学の歴史と展開　（社会学の命名から社会学への歩み）	社会学の命名に至る過程から実証科学であることをまとめること
2. 実証科学としての「社会学」Ⅰ デュルケームの社会学　『自殺論』	『自殺論』の要点を整理すること
3. 実証科学としての「社会学」Ⅱ-1 ウェーバーの社会学Ⅰ	ウェーバーの学説をまとめること
4. 実証科学としての「社会学」Ⅱ-2 ウェーバーの社会学Ⅱ	『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』の要点を整理すること
5. シカゴにおける社会学の展開Ⅰ	『ヨーロッパとアメリカにおけるポーランド農民』の要点を整理すること
6. シカゴにおける社会学の展開Ⅱ	都市社会学
7. 逸脱をうむ社会環境	『ジャック・ローラー』の要点を整理し、少年非行の要因をまとめること
定 期 試 験　（期 末 レ ポ ー ト）	
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

<table>
<tr><td rowspan="2">成績評価方法</td><td>項目</td><td>□課題・小テスト　%</td><td>□レポート　%</td><td>■定期試験　80%</td><td>■その他　20%</td></tr>
<tr><td>基準等</td><td></td><td></td><td>全般に渡る範囲から理解度をはかる</td><td>要点を整理したプリントを作成</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教科書</td><td colspan="2">著者</td><td>タイトル</td><td>出版社</td><td>発行年</td></tr>
<tr><td colspan="4">各項目に応じてレジュメを配布する</td></tr>
<tr><td>参考図書</td><td colspan="4">適宜紹介する</td></tr>
<tr><td>履修要件等</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>オープンな教育リソース</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>研究室</td><td colspan="2">1号館4階 第1研究室</td><td>オフィスアワー</td><td>毎週火曜日 12:10～13:00</td></tr>
</table>

科目№	BSS02-1E，BSS02-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	社会福祉学	担当教員 E-Mail	野村　和樹		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	社会科学系	選択必修	1　単位	前　期（30h）
	作業療法学				
	言語聴覚学		必　修		

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	学生が自ら“他者を支援すること”を学びとれるよう、人間の尊厳や権利について、考え理解できるように児童福祉の領域を主として講義を展開する。また、人間の尊厳が現代社会においていかに尊重されているのかを、福祉の制度施策に照らし合わせて考える。その上で、社会福祉における価値観や倫理、人権意識、思想、歴史などを体系的に学び理解する。 対人援助職に求められる理念を理解することにより、豊かなコミュニケーション能力の獲得につながる。 また、障害者福祉論における今日のサービスの理解、社会福祉援助技術論で学ぶ臨床場面における援助技術の理解につながる科目である。
学修目標 到達目標	1. 人間の尊厳と権利について理解できる 2. 社会福祉に関わる制度施策が理解できる 3. 各種の福祉サービスを理解し社会資源として活用できる
対面授業の進め方	講義形式で授業を進める。教科書は用いずレジュメを配布し授業を進めるので、A4版のファイルを用意すること。新しく学ぶ用語があるので、自ら用語集を作成できるようにノートを用意されることを勧める。
遠隔授業の進め方	時間割にある対面授業の時間に、ライブにて遠隔授業を行う。通信障害、正当な理由により、その時間に受講できなかった場合は、録画されたものを視聴しレポート提出を持って出席とする。したがって、原則授業の進め方は対面授業に同じ。レジュメについては、登校日に配付。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 社会福祉とは	復習：自らの社会福祉観をまとめること
2. 児童に見る権利の変遷と社会の歴史Ⅰ 社会の負担としての児童から労働力としの児童	復習：児童の地位の移り変わりをまとめること
3. 児童に見る権利の変遷と社会の歴史Ⅱ 次代の国身としての児童から権利の主体としての児童	復習：「権利の主体」について考えをまとめること
4. 社会的養護のおこりⅠ 明治時代にはじまる社会的養護	復習：明治時代にはじまる社会的養護のあり方を整理すること
5. 社会的養護のおこりⅡ 感化事業の創設と展開	復習：明治期における先覚者の事業と意義をまとめること
6. 児童領域における社会福祉とは	復習：児童福祉法を理解し整理すること
7. 児童に関わる社会福祉の制度・施策	復習：児童福祉に関わる法律をまとめること
8. 今日の児童に関わる問題 児童虐待，子どもの貧困問題	復習：児童虐待についてまとめること
9. ライフサイクルと社会福祉	復習：ライフサイクルと福祉の関係をまとめること
10. 障がい者の福祉とは	復習：日本における障がい者福祉の歴史をまとめること
11. 障がい者福祉に関わる法制度 （身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、 精神保健福祉法等）	復習：身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、 精神保健福祉法についてまとめること
12. 障がい者福祉における制度・施策 （障害者基本法、障害者総合支援法、障害者差別解消法等）	復習：障害者総合支援法による支援についてまとめること

13. 高齢期の社会福祉とは			復習：高齢者福祉の変遷についてまとめること		
14. 介護保険制度			復習：介護保険制度を理解し、整理すること		
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	□レポート　%	■定期試験　80%	■その他　20%
	基準等			全般に渡る範囲から理解度をはかる	要点を整理したプリントを作成
教科書		著者	タイトル	出版社	発行年
		各項目に応じてレジュメを配布する			
参考図書		適宜紹介する			
履修要件等		社会保障制度、社会福祉援助論、障害者福祉論も併せて受講されることが望ましい			
オープンな教育リソース					
研究室		1 号館 4 階 第 1 研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10～13:00	

科目№	BNS01-1R	授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	情報処理学入門	担当教員 E-Mail	河野　良平		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学 作業療法学 言語聴覚学	自然科学系	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	各講義等において課されるレポート作成から、実習報告、卒業論文の作成に至るまで、大学での課題の多くは、パーソナルコンピューター（PC、パソコン）で用いられるアプリケーションソフトの基本的な操作ができることを前提として提示されている。実習形式により、そのために必要な、メールソフト、ブラウザソフト、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本的操作を身に付けることを目標とする。記録の作成、情報の発信等の技術を身につけることは様々な場面役立つ。また、統計処理に関わる科目を履修するための基本的な知識技術が獲得できる。
学修目標 到達目標	1. 学内のネット環境を活用できる 2. 基本的なソフトを使うことができる 3. 学修・研究活動における基本的な関数を使うことができる
対面授業の進め方	実際にパソコン操作をしながら、授業を行う。教科書は特に指定せず、資料は授業内で配布する。第1回目、第2回目の授業には携帯電話、マイク付きイヤホンを持って来ること。
遠隔授業の進め方	時間割にある対面授業の時間に、ライブにて遠隔授業を行う。通信障害、正当な理由により、その時間に受講できなかった場合は、録画されたものを視聴しレポート提出を持って出席とする。また、毎回時間内に作成できる課題を課し、メールにて課題の提出を求める。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. CALL教室の使用方法、学内メールの設定、Microsoft Teamsの設定を行う。	メールの転送、Microsoft Teamsの設定
2. Microsoft Teamsの使い方	会議への参加、チャット等
3. メールの書き方②	メール作成し送信すること
4. ブラウザの使い方、スクリーンショット、著作権について	課題を作成し、添付ファイルで送信すること
5. ワープロ・ソフトの使い方①	課題を作成し、添付ファイルで送信すること
6. ワープロ・ソフトの使い方②	課題を作成し、添付ファイルで送信すること
7. ワープロ・ソフトの使い方③	課題を作成し、添付ファイルで送信すること
8. 表計算ソフトの使い方①	課題を作成し、添付ファイルで送信すること
9. 表計算ソフトの使い方②　関数の使い方	課題を作成し、添付ファイルで送信すること
10. 文献検索の方法	課題を作成し、添付ファイルで送信すること
11. プレゼンテーション・ソフトの基本①	課題を作成し、添付ファイルで送信すること
12. プレゼンテーション・ソフトの基本②	課題を作成し、添付ファイルで送信すること
13. 試験課題：プレゼンテーション・ソフトを用いた発表①	事前に発表練習をしてくること
14. 試験課題：プレゼンテーション・ソフトを用いた発表②	事前に発表練習をしてくること
15. 総括及びフィードバック	復習：授業内容を復習し、理解を深める

成績評価方法	項目	■課題　40%	□レポート　%	□定期試験　%	■その他　60%
	基準等	定期的に課す課題を評価する。			プレゼンテーション

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	特になし			

参考図書	特になし		
履修要件等	特になし		
オープンな 教育リソース			
研究室	研究科棟 4 階　第 147 研究室	オフィスアワー	毎週金曜日 12:10～13:00

科目№	BNS02-1R	授業形態	実習	開講年次	１年次
授業科目名	情報処理学応用	担当教員 E-Mail	河野　良平		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学 作業療法学 言語聴覚学	自然科学系	必　修	１　単位	後　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	パーソナル・コンピュータ（PC）は、データの収集、蓄積、加工、分析に必要不可欠なアイテムのひとつである。本講義では、表計算ソフトウエアである Excel の操作方法を学び、統計の基本的な処理法を身に着けることを目指す。またマイクロソフトや Google のアプリケーションを利用したアンケート調査やそのデータのまとめ方、パワーポイントを使ったデータの発表方法について実習形式で学ぶ。本講義で使用するエクセルなどのアプリや統計処理は実習や卒業研究だけでなく、将来の仕事に役立つことを理解する。
学修目標 到達目標	1. 代表的な表計算ソフトウエアである Excel の操作方法を身につける。 2. 基本的な統計処理ができる。 3. アンケート調査ができる。 4. アンケート結果を power point にまとめて発表できる。
対面授業の進め方	実技形式にて、表計算ソフト Excel を操作しながら、統計処理の基本の習得を目指す。 配布するプリントとエクセルファイルに沿って実際に入力することで理解を深める。
遠隔授業の進め方	時間割にある対面授業の時間に、ライブにて遠隔授業を行う。通信障害、正当な理由により、その時間に受講できなかった場合は、録画されたものを視聴しレポート提出を持って出席とする。また、毎回時間内に作成できる課題を課し、メールにて課題の提出を求める。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30 分以上
1. ガイダンス、マイクロソフトアカウントを用いたエクセル、teams 操作	課題を作成し、添付ファイルで提出すること	
2. 過去のデータの読み出し、平均値のグラフ化	課題を作成し、添付ファイルで提出すること	
3. データの並べ替え、関数の使用方法、１変数のグラフ表現－１	課題を作成し、添付ファイルで提出すること	
4. 1変数のグラフ表現－2、円グラフ、折れ線グラフ	課題を作成し、添付ファイルで提出すること	
5. 1変数の統計量　、平均、分散、標準偏差、箱ひげ図	課題を作成し、添付ファイルで提出すること	
6. 2 変数のグラフ表現と統計量、散布図と相関係数	課題を作成し、添付ファイルで提出すること	
7. 回帰直線とその予測	課題を作成し、添付ファイルで提出すること	
8. 平均の差の検定	課題を作成し、添付ファイルで提出すること	
9. アンケート結果の集計方法、表現方法	課題を作成し、添付ファイルで提出すること	
10. Forms 上でのアンケート作成	課題を作成し、添付ファイルで提出すること	
11. アンケート回答、回収、データ整理	課題を作成し、添付ファイルで提出すること	
12. アンケートグラフ作成、PPT 作成、発表準備	発表課題を作成し、添付ファイルで提出すること	
13. 試験課題 アンケート調査結果報告	事前に発表練習をしてくること	
14. 試験課題 アンケート調査結果報告	事前に発表練習をしてくること	
15. 総括及び補足（ポイント解説とまとめ）	復習：授業内容を復習し、理解を深める	

成績評価方法	項目	■課題　40%	□レポート　%	□定期試験　%	■その他　60%
	基準等	定期的に課す課題を評価する。			プレゼンテーション

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	教科書としては用いないが、Excel でやさしく学ぶシリーズを推薦する。			

参考図書	石村貞夫 他	Excel でやさしく学ぶアンケート調査の統計処理　2019	東京図書	2019
	石村貞夫 他	Excel でやさしく学ぶ統計解析　2019	東京図書	2019
履修要件等	時間を無駄にしないために、授業に集中し、習ったことはその場で理解するように努める。			
オープンな教育リソース				
研究室	研究科棟 4 階　第 147 研究室	オフィスアワー	毎週金曜日　12:10～13:00	

科目№	BNS04-1R	授業形態	講義	開講年次	１年次
授業科目名	生物学	担当教員 E-Mail	河野　良平		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	自然科学系	必　修	1　単位	前　期（16h）
	作業療法学				
	言語聴覚学				

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	「ヒト」に焦点をあてた生命科学を内容とし、人の生命維持機構のもつ法則性・論理性について理解する。１年次に学習する解剖学・生理学の基礎となる科目である。
学修目標 到達目標	1. 体の構成単位である細胞の構造と機能について説明できる 2. 体の中の物質代謝や情報伝達のしくみが説明できる 3. 遺伝子の構造と機能が説明できる
対面授業の進め方	教科書と配布プリントに沿った講義を行う。
遠隔授業の進め方	対面授業が出来なくなった場合、Teams によるオンライン講義と Stream による動画配信によって行う。毎回、課題の提出をもって出席とする。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30 分以上
1.　体をつくる分子にはどのようなものがあるか（三大栄養素）	三大栄養素別を構成する分子をまとめること	
2.　細胞とはどのようなものか（細胞）	細胞の基本的な特徴についてまとめること	
3. 細胞はどのように増えるか　（細胞分裂）	２つの細胞分裂様式についてまとめること	
4. ヒトの体はどのようにできているか　（組織・器官　） **[講義１～３回までのまとめ小テスト]**	各組織の構造と特徴についてまとめること	
5. 体の中で物質はどのように変化するか　（代謝）	三大栄養素の代謝についてまとめること	
6. 遺伝子と遺伝はどのように関係しているか　（遺伝の法則）	遺伝の法則についてまとめること	
7. 遺伝子と体はどのように関係しているか　（セントラルドグマ）	遺伝子からタンパク質が合成されるまでの過程をまとめること	
定 期 試 験　（期末）		
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	試験で不正解だった領域をもう一度復習すること	

成績評価方法	項目	■課題・小テスト　20%	□レポート　　%	■定期試験　　80%	□その他　　%
	基準等	指定した講義の内容について小テスト（1回）を実施し、理解度を評価する。		全講義の内容についての理解度を評価する。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	内山靖　他	リハベーシック　生物学・生体防御学	医歯薬出版	2023
参考図書	八杉貞雄	ヒトを理解するための生物学　改訂版	裳華房	2021

履修要件等	受講にあたり、教科書を必ず購入すること。		
オープンな教育リソース			
研究室	研究科棟４階　第 147 研究室	オフィスアワー	毎週金曜日　12:10～13:00

科目№	BFL02-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	英文講読	担当教員 E-Mail	松尾　加代		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学 作業療法学 言語聴覚学	外国語系	必　修	1　単位	後　期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	読むことと聴くことで英文を理解する。英語に対する苦手意識を軽減し、英語によるコミュニケーションへの興味を促進することを目指す。
学修目標 到達目標	1. 医学・医療関係の英単語が理解できる。 2. 医学・医療関係の英文が読解できる。 3. 医学・医療関係の英文を聴いて理解することができる。
対面授業の進め方	講義形式で授業をすすめる。指定の教科書を使用して、読むことと聴くことを通して英文の理解を深める。単語を調べ、日本語訳を行い、各ユニットの最後に理解度の確認のための問題を実施する。
遠隔授業の進め方	やむを得ず遠隔授業になった場合は、Microsoft office 365 の stream を使用して動画を配信する。動画視聴後、指定された課題を提出する。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. Chapter 2　Parkinson's Disease（パーキンソン病）	知らない単語を調べる	
2. Chapter 2　Parkinson's Disease（パーキンソン病）	〃	
3. Chapter 5　Cardiovascular Disease（循環器疾患）	〃	
4. Chapter 5　Cardiovascular Disease（循環器疾患）	〃	
5. Chapter 11　Femoral Neck Fracture（大腿骨頚部骨折）	〃	
6. Chapter 11　Femoral Neck Fracture（大腿骨頚部骨折）	〃	
7. Chapter 12　Case Study（事例研究）	〃	
定 期 試 験		
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30 %	□レポート　　%	■定期試験　65 %	■その他　5 %
	基準等	単語クイズ		定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。	授業参加・学習態度を評価する

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	荒金房子, 他	The Art of Healing	南雲堂	2012
参考図書				
履修要件等				
オープンな教育リソース				
研究室	1号館4階　第4研究室	オフィスアワー	毎週水曜日　16：20 ～ 17：50	

科目№	BLA01-1R	授業形態	演習	開講年	1年次
授業科目名	基礎ゼミ	担当教員 E-Mail	各担当教員		

基本項目	専　　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	教養ゼミ	必　修	1　単位	前　期 （16h）
	作業療法学				
	言語聴覚学				

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	関連3施設の外観や内部の見学を行い、医療人となる覚悟と関心を強化する。また、施設見学レポートの作成や読解スキル養成ドリルを通じて、文章作成能力を向上させるとともに、情報利活用能力・パソコン操作能力・オンライン活用能力を向上させる。カレンダーアプリ等を活用し、段取り力を身に付ける。対話を通じて、ディプロマ・ポリシーに掲げる協調性、社会性を深める。
学修目標 到達目標	1 医療人となる覚悟と関心を強化する。 2 文章作成能力を向上させる。 3 図書館等を利用して情報利活用能力（情報モラル、情報探索、情報整理等)を向上させる。 4 パソコン操作能力・オンライン活用能力を向上させる。 5 段取り力を身に付ける。 6 協調性、社会性を深めることができる。
対面授業の進め方	少人数形式で、担当教員の指導のもと、アクティブ・ラーニング（グループワーク、ディスカッションなど）を中心とした演習授業を行う。
遠隔授業の進め方	遠隔授業を行う場合、office365teams を用いる予定である。関連3施設の外観や内部の見学は、地図情報サービスや画像を用いる予定である。

授業計画（8コマ）	授業時間外に必要な学修　30 分
1.　オリエンテーション ①メンバー顔合わせ　②シラバス説明　③読解力養成ドリル【事前テスト】 （4/8）	
2.　読解力養成ドリル①　各ゼミでのプログラム　（4/15）	
3.　読解力養成ドリル②　関連施設見学①　各ゼミでのプログラム　（4/22）	レポート①
4.　読解力養成ドリル③　レポート①FB　各ゼミでのプログラム　（5/13）	
5.　読解力養成ドリル④　関連施設見学②　各ゼミでのプログラム　（5/20）	レポート②
6.　読解力養成ドリル⑤　レポート②FB　各ゼミでのプログラム　（5/27）	
7.　読解力養成ドリル⑥　関連施設見学③　各ゼミでのプログラム　（6/3）	レポート③
8.　読解力養成ドリル【事後テスト】　レポート③FB　各ゼミでのプログラム （6/10）	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	■レポート　50%	■授業への取り組み　50%
	基準等		提出期限・体裁・項目・内容について、評価する。	授業態度・参加度を評価する。 読解スキル養成ドリルの取り組み姿勢を評価する。

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	特に指定しない			
参考図書				

e-ラーニング	カワリハドリル	読解スキル養成ドリル	ラインズ株式会社	
履修要件等	この授業ではノート PC を使用します。また、以下の内容に取り組みます。①Microsoft ワードでのレポート作成　②teams の指定フォルダへのレポート提出（アップロード）。③ノート PC での teams オンライン授業参加。④メールの書き方・返答のマナーの修得。⑤カレンダーアプリ等を活用し段取り力を身に付ける。⑥図書館利用マナーの習得。			
オープンな教育リソース				
研究室	各担当教員研究室・教室	オフィスアワー	各担当教員　オフィスアワー	

科目№	FBM01-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	形態・機能学解剖領域Ⅰ	担当教員 E-Mail	山岸　直子		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達	必　修	2　単位	前　期（30h）
	作業療法学				

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	人体を構成する組織・器官を植物性機能（生命維持に必須の機能）と動物性機能（運動に関連する機能）に分けて、前期は植物性機能を有する消化器・呼吸器・循環器・泌尿器・生殖器の形態と構造について学ぶ。各器官がどのように配置され、どんな形をして、どのような仕組みで機能しているのかを学習する本授業は、人体を統合的に理解し、将来医療従事者として社会貢献するために必須の専門基礎科目である。本学のディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」を達成するための科目であり、臨床専門科目を学ぶ際に極めて有用となる。また、知識の修得だけでなく、生命に対する敬意を育むことによって豊かな人間性と広い教養を身に付けることができる。
学修目標 到達目標	1. 体腔の概念を理解し、そこに含まれる器官の配置と関連性を理解することができる 2. 消化・吸収機能を持つ器官の形態と構造について、正確に理解することができる 3. 呼吸と発声を行う器官の形態と構造について、正確に理解することができる 4. 心臓を中心とした血液循環器系およびリンパ系について、正確に理解することができる 5. 泌尿器系での尿生成、生殖器系での精子形成・性周期について、正確に理解することができる
対面授業の進め方	講義を行う。板書に加えて図の豊富な配布資料やスライドなど教育機器を適切に利用し解説する。毎回のミニテストの実施とフィードバックによって理解不足な項目が明確になる。アクティブラーニング手法を取り入れ、前もって調べてきたことや授業で学んだことに対して教員と学生間及び学生間同士での意見交流を頻繁に行う。
遠隔授業の進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、状況により課題の郵送、メールによる配信、Microsoft office365 の Teams を使用した双方向通信の授業のいずれかあるいは組み合わせで行う。遠隔授業時の出席確認は毎回の課題の提出により行い、質疑応答については課題の提出に併せて上記通信方法のいずれかで行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 解剖学とは（形態と機能）－基礎医学における解剖学の位置、解剖学の種類、解剖学用語、人体の区分・体腔 pp.5－8	高校での生物学の基礎知識および漢字・英語能力
2. 人体の構成－細胞、細胞小器官、細胞分裂・染色体、組織、器官、系統 pp.9－20	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
3. 人体の発生－胚子の発生、胚葉の形成、各器官系の発生、鰓弓から発生する骨と筋 pp.21－36	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
1.　消化器系Ⅰ－内臓器官の基本構造 pp.333－334、口腔、舌、歯、唾液腺、咽頭、食道 pp.370－373	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
2.　消化器系Ⅱ－胃、小腸（十二指腸・空腸・回腸）、大腸（盲腸・結腸・直腸）、消化・吸収のしくみ pp.373－378	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
6. 消化器系Ⅲ－肝臓（構造と機能）、胆嚢、膵臓（外分泌部と内分泌部）、腹膜、嚥下のしくみ pp.378－383	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
7. 呼吸器系Ⅰ－鼻腔、副鼻腔、咽頭、喉頭軟骨・筋、気管・気管支、発声のしくみ p.360－366	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
8. 呼吸器系Ⅱ－肺、肺区域、肺胞、胸膜・縦隔、呼吸のメカニズム pp.366－369	前回の講義内容の復習とミニテスト対策

9. 循環器系Ⅰ－血管（動脈・静脈・毛細血管）、体循環・肺循環、心臓の構造と栄養血管、刺激伝導系 pp.335－341	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
10. 循環器系Ⅱ－動脈系（大動脈と主な動脈及びその枝）pp.341－350	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
11. 循環器系Ⅲ－静脈系（伴行静脈、皮静脈、硬膜静脈洞、門脈と側副循環路、奇静脈）、胎児循環、リンパ管、リンパ性器官 pp.350－359	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
12. 泌尿器系－腎臓、ネフロン（腎小体、尿細管）、尿生成のしくみ、尿管、膀胱、尿道、畜尿と排尿のメカニズム pp.384－389	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
13. 生殖器系－男性生殖器：精巣、精子形成、精巣上体、精管 pp.390－392 女性生殖器：卵巣、卵管、子宮、卵巣・子宮周期のしくみ pp.390－397	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
14. 内分泌系－内分泌線と外分泌線、ホルモンと標的器官・受容体、下垂体、甲状腺、上皮小体、副腎 pp.398－404	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート 0%	■定期試験 90%	□その他 0%
	基準等	毎回の授業中に実施する小テスト（記述式）を10%加算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択形式で出題し、その成績を90%換算する。	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	野村嶬	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学　第５版	医学書院	2020
参考図書	細田多穂 監修	シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ　運動器系解剖学テキスト	南江堂	2015
	佐藤達夫 訳	人体解剖カラーアトラス　原著第８版	南江堂	2021
	相磯貞和 訳	ネッター解剖学アトラス　原書第７版	南江堂	2022

履修要件等	特段なし		
オープンな教育リソース			
研究室	非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける

科目№	FBM02-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	形態・機能学解剖領域Ⅱ	担当教員 E-Mail	山岸　直子		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学 作業療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達	必　修	2　単位	後　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	前期の内容をベースに、後期の本科目では、動物性機能（運動に関連する機能）を有する骨、関節・靭帯、筋、神経、感覚器の形態と構造について学ぶ。各器官がどのように配置され、どんな形をして、どのような仕組みで機能しているのかを学習する本授業は、人体を統合的に理解し、将来医療従事者として社会貢献するために必須の専門基礎科目である。本学のディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」を達成するための科目であり、臨床専門科目を学ぶ際に極めて有用となる。また、知識の修得だけでなく、生命に対する敬意を育むことによって豊かな人間性と広い教養を身に付けることができる。
学修目標 到達目標	1. 骨、関節・靭帯、筋からなる運動器系の形態と構造について、正確に理解することができる 2. 神経系の構造を中枢神経と末梢神経に分けて、正確に理解することができる 3. 上・下行性伝導路について、その経路と機能を正確に理解することができる 4. 皮膚感覚器および深部感覚器の構造とその伝導路について、正確に理解することができる 5. 特殊感覚器の構造とその伝導路について、正確に理解することができる
対面授業の進め方	講義を行う。板書に加えて図の豊富な配布資料やスライドなど教育機器を適切に利用し解説する。毎回のミニテストの実施とフィードバックで理解不足な項目が明確になる。アクティブラーニング手法を取り入れ、前もって調べてきたことや授業で学んだことに対して教員と学生間及び学生間同士での意見交流を頻繁に行う。
遠隔授業の進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、状況により課題の郵送、メールによる配信、Microsoft office365 の teams を使用した双方向通信の授業のいずれかあるいは組み合わせで行う。遠隔授業時の出席確認は毎回の課題の提出により行い、質疑応答については課題の提出に併せて上記通信方法のいずれかで行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 骨格総論－形状による分類、骨の肉眼的・顕微鏡的構造、骨の発生とリモデリング、破骨細胞、骨芽細胞 pp.37－45	前期講義内容の復習
2. 関節・靭帯総論－骨の連結、関節の種類・構造・分類、関節の機能（凹凸の法則・てこ）、上下肢の主要靭帯、pp.97－112	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
3. 筋系総論－筋組織の種類と特徴、筋収縮メカニズム、筋細胞と筋膜、筋の起始・停止、筋の作用・運動 pp.161－176	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
4. 神経系総論－ニューロン・シナプス・神経伝達物質・グリア、中枢・末梢神経系、灰白質・白質、髄膜・脳室、脳・脊髄の発生 pp.229－240	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
5. 脳神経Ⅰ－第1～6脳神経の線維構成と機能 pp.300－305	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
6. 脳神経Ⅱ－第7～12脳神経の線維構成と機能 pp.305－311	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
7. 中枢神経Ⅰ－大脳半球（終脳）：外表面、皮質・髄質の構造、皮質の機能局在（運動・感覚・言語野）、大脳基底核 pp.258－267	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
8. 中枢神経Ⅱ－脊髄（灰白質の神経核と白質の神経路）、前根、後根、延髄（神経核、神経線維束、錐体交叉）pp.241－249	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
9. 中枢神経Ⅲ－橋、中脳、小脳（区分、小脳脚、小脳核、小脳の入出力）、間脳（視床の神経核）pp.249－258	前回の講義内容の復習とミニテスト対策

10. 自律神経系－交感神経、副交感神経 pp.311－314 脊髄神経－前根・後根、脊髄神経節、前枝・後枝、皮節 pp.278－280	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
11. 感覚器系Ⅰ－皮膚の構造、皮膚感覚器、視覚器（眼球、毛様体、虹彩、網膜、視神経、外眼筋と眼球運動）pp.319－326	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
12. 感覚器系Ⅱ－平衡聴覚器（外・中・内耳、卵形嚢、球形嚢、半規管、蝸牛管、コルチ器）、味覚器 pp.326－331	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
13. 神経路Ⅰ－上行性神経路： 体性感覚（皮膚覚、深部覚）、視覚、聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚の各神経路 pp.268－274	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
14. 神経路Ⅱ－下行性神経路：錐体路系（皮質脊髄路、皮質核路）、錐体外路系（赤核脊髄路・視蓋脊髄路・前庭脊髄路・網様体脊髄路）pp.274－277	前回の講義内容の復習とミニテスト対策
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法					
	項目	■課題・小テスト 10%	□レポート 0%	■定期試験 90%	□その他 0%
	基準等	毎回の授業中に実施する小テストを10%加算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択で出題し、その成績を90%換算する。	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	野村嶬	「標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学第５版」	医学書院	2020
参考図書	寺島俊雄	「カラー図解 神経解剖学講義ノート」	金芳堂	2011
	細田多穂 監修	「シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 運動器系解剖学テキスト」	南江堂	2015
	相磯貞和 訳	「ネッター解剖学 アトラス 原書第７版」	南江堂	2022

履修要件等	特段なし		
オープンな教育リソース			
研究室	非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける

科目№	FBM03-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	形態・機能学生理領域Ⅰ	担当教員 E-Mail	坪田　裕司		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学 作業療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達	必　修	2　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	身体の異常を把握・理解する為には、正常な姿を理解しておく必要があることはいうまでもない。生理学では、人体の細かな機能と、それらを統合する生体機能の自己調節、恒常性の維持機構、適応について学習し、生きている仕組みを総合的に理解できるように学ぶ。
学修目標 到達目標	1. 人体の基本的生理機能を理解できる。 2. 細胞から臓器、個体レベルまで機能している生理的システムをイメージできる。 3. 生命現象における基本的な知識を学習して、今生きている、命を支えている体の仕組みを説明出来る。
対面授業の進め方	講義ポイントのまとめ資料をあらかじめ配布する。まとめ資料を読んでおよその講義内容を把握しておくこと。国試はもちろん専門科目の基礎として重要な内容ばかりであるから、授業で触れられなかった部分も含め充分な予習復習が重要である。
遠隔授業の進め方	遠隔での実施になった場合は、Teams-Stream にての動画配信をベースに進める。課題やレポートは Teams-Form により課す。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1.　細胞生物学、生命の単位、（細胞の構造、細胞膜、遺伝と進化、ATP）	はじめにまとめ資料小冊子を配布するので、該当する章の復習
2. 消化と吸収（三大栄養素、消化管、消化酵素、蛋白質、糖質、脂質）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
3. 代謝と栄養（蛋白質代謝、糖質代謝、脂質代謝、エネルギー代謝）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
4. 血液（赤血球、白血球、血小板、血色素とその代謝、酸素と二酸化炭素）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
5. 呼吸（呼吸器、呼吸運動、ガス交換）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
6. 循環：心臓と心電図（心臓の構造と機能、血管系、刺激伝導系、心電図の基礎）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
7. 微小循環、脳循環とリンパ循環（間質液、脳脊髄液、脳血液関門、リンパ管）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
8. 尿生成と排泄（腎臓の構造と機能、利尿）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
9. 細胞膜と物質の出入り（受容体、興奮性細胞、神経細胞、静止膜電位）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
10. 神経線維、興奮の伝導（インパルス、シナプス伝達、跳躍伝導、神経伝達物質）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
11. 神経の情報伝達（興奮性と抑制性接続、 神経系、中枢神経、末梢神経）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
12. 感覚（感覚と知覚、体性感覚、内臓感覚）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
13. 感覚（深部感覚、視覚）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
14. 感覚（視覚続き、 聴覚、味覚、嗅覚、平衡感覚）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	■中間・小テスト　45%	■レポート　　0%	■定期試験　50%	■その他　　5%
	基準等	全体1/3、2/3ほどで中間テストを2回行なう		中間テストと合わせて評価する	講義への参加度合いで評価する

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	Kim E. Barrett　他 岡田泰伸　他訳	ギャノング生理学 原書 26 版	丸善	2022
参考図書	桑名俊一　編著	メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ 新版　生理学	理工図書	2020

履修要件等	高校生物学履習済みもしくは生物学履習中であること。		
オープンな教育リソース			
研究室	1 号館 5 階 第 11 研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 16:20～17:30

科目№	FBM04-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	形態・機能学生理領域Ⅱ	担当教員 E-Mail	坪田　裕司		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学 作業療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達	必　修	2　単位	後　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	身体の異常を把握・理解する為には、正常な姿を理解しておく必要があることはいうまでもない。生理学では、人体の細かな機能と、それらを統合する生体機能の自己調節、恒常性の維持機構、適応について学習し、生きている仕組みを総合的に理解できるように学ぶ。
学修目標 到達目標	1. 人体の基本的生理機能を理解できる。 2. 細胞から臓器、個体レベルまで機能している生理的システムをイメージできる。 3. 生命現象における基本的な知識を学習して、今生きている、命を支えている体の仕組みを説明出来る。
対面授業の進め方	講義ポイントのまとめ資料をあらかじめ配布する。まとめ資料を読んでおよその講義内容を把握しておくこと。国試はもちろん専門科目の基礎として重要な内容ばかりであるから、授業で触れられなかった部分も含め充分な予習復習が重要である。
遠隔授業の進め方	遠隔での実施になった場合は、Teams-Stream にての動画配信をベースに進める。課題やレポートは Teams-Form により課す。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30 分以上
1.　筋（筋細胞、筋収縮、筋繊維の構造、興奮収縮連関）	はじめにまとめ資料小冊子を配布するので、該当する章の復習
2. 筋（筋細胞、筋収縮のエネルギー、疲労、筋の種類）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
3. 筋感覚（筋紡錘、筋反射、大脳基底核、小脳、運動調節、運動障害）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
4. 運動生理（運動負荷と心拍数、基礎代謝、RMR、METs、エクササイズ）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
5. 自律神経系（交感神経系、副交感神経系、自律神経の中枢、視床下部）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
6. 体温調節（体温調節中枢、自律神経、発汗）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
7. 高次脳神経（本能、記憶と学習、統合機能、睡眠、脳波）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
8. 循環（循環調節、血圧、異常心電図）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
9. 呼吸（神経性調節、反射、呼吸量、酸素負債）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
10. 内分泌（ホルモン、フィードバック、恒常性）【中村美砂】	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
11. 内分泌（続き）【中村美砂】	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
12. 内分泌と神経性調節、生体システムと恒常性（恒常性維持、ストレス）　生体防御と免疫（自然免疫、獲得免疫、リンパ球）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
13. 体液の平衡（体液量、電解質、アシドーシスとアルカローシス、恒常性）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
14. 成長と老化（加齢変化、廃用症候群、認知症の予防）	まとめ資料小冊子の該当する章の予習と復習
定 期 試 験　（期 末 レ ポ ー ト）	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	■中間・小テス　45%	■レポート　0%	■定期試験　　50%	■その他　　5%
	基準等	全体1/2ほどで中間テストを1回行なう		中間テストと合わせて評価する	講義への参加度合いで評価する

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	Kim E. Barrett 他著 岡田泰伸　他訳	「ギャノング生理学 原書 26 版」	丸善	2022
参考図書	桑名俊一　他編著	「メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ 新版　生理学」	理工図書	2020

履修要件等	形態・機能学生理領域 I 履習済みもしくは再履修予定であること。		
オープンな教育リソース			
研究室	1 号館 5 階 第 11 研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 16:20～17:30

科目№	FBM05-1R	授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	解剖学実習Ⅰ	担当教員 E-Mail	大篭　友博		

基本項目	専　　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	本科目は本学のディプロマポリシーである「リハビリテーション領域における基礎知識の養成・思考力の養成・協調性の養成」を達成するための科目である。知識としては、形態・機能学解剖領域Ⅰいわゆる解剖学座学で学んでいる知識と並行して、特にリハビリテーション領域において必須となる基礎知識として骨格や筋肉、関節などの運動器の構造・形態を学ぶ。具体的には筋や骨格がどのように配されて、どのような仕組みで運動するのかを学ぶ。骨格標本を手に触れ部位の名称を学び、さらに筋肉、血管、神経の走行、それらの立体構造や物理力学的な働き、ベクトルやトルクなどと関連付けながら理解を深めることで、高学年の運動学の学修にも直結する。思考力は、予習プリントを用いることで、課題の発見と解答の探索・解決能力を身に着けてゆく。協調性は、Team Based Learning (TBL) 形式の実習によって協調性やコミュニケーション能力を身に着けてゆく。
学修目標 到達目標	1. 上肢骨格の骨名およびその詳細な部位名を正確に言うことができる 2. 筋肉の起始・停止・作用および支配神経を正確に言うことができる 3. 骨格模型を用いて筋肉の起始・停止・作用を毛糸・テープなどで表現することができる 4. 関節の種類と運動を正確に言うことができる。また、自らの身体で表現できる 5. 予習には単なる穴埋めでなく、教科書の中から解答を自力で探し出す「探索力」の獲得も視野に入れるため、具体的な教科書のページ数までは敢えて記載しない。
対面授業の進め方	教員による一方的な講義ではなく、学生が自ら体を動かして学ぶ実習（アクティブラーニング）を原則とする。学生を3〜4人1グループに編成し、各グループに骨格標本模型1箱・交連模型を貸与してTBL形式で進行する。さらに毎回、予備学習プリントを配布するので予習を実施すること。主に実習中あるいは復習用の課題材料としてスケッチ課題を与え、これらは最終成績の一部として取り組みに応じた加点をする。いずれも学生が手足を動かして主体的な学習を進めるためのシーズである。対面実習では、毎回チェックリストや実習要領を配布するので、それに従って実習を進行する。各回の最後には確認試問を行い、成績に加味する。
遠隔授業の進め方	原則対面授業で進める。遠隔講義が必要になった場合は、Stream による講義動画配信と Forms による小テストの提出によって実施する。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 骨学実習／ガイダンス・総論・全身骨格の配置と名称	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。	
2. 骨学実習／椎骨の種類と数、脊柱・脊柱彎曲	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。	
3. 骨学実習／上肢帯と胸郭の骨（鎖骨、肩甲骨）と肋骨、胸骨	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。	
4. 骨学実習／自由上肢の骨（上腕骨、前腕骨、手根骨）	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。	
5. 関節学実習／主な関節の構造と運動の種類、腕神経叢の構成	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。	
6. 筋学実習／上肢帯の筋（僧帽筋、肩甲挙筋、大・小菱形筋、前鋸筋、大・小胸筋）	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。	

7. 筋学実習／上腕の筋（上腕前面の筋、上腕後面の筋）	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。
8. 筋学実習／前腕前面の筋（浅層、手関節屈筋群）	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。
9. 筋学実習／前腕前面の筋（深層、手関節および指関節屈筋群）	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。
10. 筋学実習／前腕後面の筋（手関節および指関節伸筋群）	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。
11. 筋学実習／手の筋Ⅰ母指球筋	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。
12. 筋学実習／手の筋Ⅱ小指球筋と手掌筋	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。
13. 筋学実習／体幹から上腕への筋／頸部前面の筋	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。
14. 脊柱を構成する骨と脊柱の運動	配布されたプリントおよび第 2 回実習の内容を基に復習を実施する。
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）	
15. 総括及びフィードバック（小テストや定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート %	■定期試験 80%	□その他 0%
	基準等	授業内容を理解したかの確認試問、予備学習プリント、スケッチ課題を総合して20%換算する。		定期試験中での試験を80%換算して判定する。	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	野村嶬	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野 解剖学　第５版	医学書院	2020
参考図書	横山千仭　他	解剖学カラーアトラス　第９版	医学書院	2023
	坂井建雄 松村譲兒	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論／運動器系　第３版	医学書院	2017
履修要件等	特段なし			
オープンな教育リソース				
研究室	１号館５階　第８研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12：00～13：00	

科目№	FBM05-1R	授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	解剖学実習Ⅰ	担当教員 E-Mail	大篭　友博		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	本科目は本学のディプロマポリシーである「リハビリテーション領域における基礎知識の養成・思考力の養成・協調性の養成」を達成するための科目である。知識としては、形態・機能学解剖領域Ⅰいわゆる解剖学座学で学んでいる知識と並行して、特にリハビリテーション領域において必須となる基礎知識として骨格や筋肉、関節などの運動器の構造・形態を学ぶ。具体的には筋や骨格がどのように配されて、どのような仕組みで運動するのかを学ぶ。骨格標本を手に触れ部位の名称を学び、さらに筋肉、血管、神経の走行、それらの立体構造や物理力学的な働き、ベクトルやトルクなどと関連付けながら理解を深めることで、高学年の運動学の学修にも直結する。思考力は、予習プリントを用いることで、課題の発見と解答の探索・解決能力を身に着けてゆく。協調性は、Team Based Learning (TBL) 形式の実習によって協調性やコミュニケーション能力を身に着けてゆく。
学修目標 到達目標	1. 上肢骨格の骨名およびその詳細な部位名を正確に言うことができる 2. 筋肉の起始・停止・作用および支配神経を正確に言うことができる 3. 骨格模型を用いて筋肉の起始・停止・作用を毛糸・テープなどで表現することができる 4. 関節の種類と運動を正確に言うことができる。また、自らの身体で表現できる 5. 予習には単なる穴埋めでなく、教科書の中から解答を自力で探し出す「探索力」の獲得も視野に入れるため、具体的な教科書のページ数までは敢えて記載しない。
対面授業の進め方	教員による一方的な講義ではなく、学生が自ら体を動かして学ぶ実習（アクティブラーニング）を原則とする。学生を2人1グループに編成し、各グループに骨格標本模型1箱・交連模型を貸与してTBL形式で進行する。さらに毎回、予備学習プリントを配布するので予習を実施すること。主に実習中あるいは復習用の課題材料としてスケッチ課題を与え、これらは最終成績の一部として取り組みに応じた加点をする。いずれも学生が手足を動かして主体的な学習を進めるためのシーズである。対面実習では、毎回チェックリストや実習要領を配布するので、それに従って実習を進行する。各回の最後には確認試問を行い、成績に加味する。
遠隔授業の進め方	原則対面授業で進める。遠隔講義が必要になった場合は、Streamによる講義動画配信とFormsによる小テストの提出によって実施する。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 骨学実習／ガイダンス・総論・全身骨格の配置と名称	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。	
2. 骨学実習／椎骨の種類と数、脊柱・脊柱彎曲	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。	
3. 骨学実習／上肢帯と胸郭の骨（鎖骨、肩甲骨）と肋骨、胸骨	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。	
4. 骨学実習／自由上肢の骨（上腕骨、前腕骨、手根骨）	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。	
5. 関節学実習／主な関節の構造と運動の種類、腕神経叢の構成	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。	
6. 筋学実習／上肢帯の筋（僧帽筋、肩甲挙筋、大・小菱形筋、前鋸筋、大・小胸筋）	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。	
7. 筋学実習／上腕の筋（上腕前面の筋、上腕後面の筋）	実習要領に沿った予習と口頭試問対策	

7. 筋学実習／上腕の筋（上腕前面の筋、上腕後面の筋）	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。
8. 筋学実習／前腕前面の筋（浅層、手関節屈筋群）	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。
9. 筋学実習／前腕前面の筋（深層、手関節および指関節屈筋群）	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。
10. 筋学実習／前腕後面の筋（手関節および指関節伸筋群）	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。
11. 筋学実習／手の筋Ⅰ母指球筋	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。
12. 筋学実習／手の筋Ⅱ小指球筋と手掌筋	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。
13. 筋学実習／体幹から上腕への筋／頸部前面の筋	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート　　%	■定期試験　　80%	□その他　　%
	基準等	授業内容を理解したかの確認試問、予備学習プリント、スケッチ課題を総合して20%換算する。		定期試験中での試験を80%換算して判定する。	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	野村嶬	標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野 解剖学　第５版	医学書院	2020
参考図書	細田多穂	シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 運動器系解剖学テキスト	南江堂	2015
	坂井建雄 松村譲兒	プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論・運動器系　第３版	医学書院	2017
	横山千仭　他	解剖学カラーアトラス　第９版	医学書院	2023

履修要件等	特段なし		
オープンな教育リソース			
研究室	１号館５階　第８研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12：00～13：00

科目№	FBM06-1R	授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	解剖学実習Ⅱ	担当教員 E-Mail	大篭　友博		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達	必　修	1　単位	後　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	本科目は本学のディプロマポリシーである「リハビリテーション領域における基礎知識の養成・思考力の養成・協調性の養成」を達成するための科目である。知識としては、形態・機能学解剖領域Ⅰいわゆる解剖学座学で学んでいる知識と並行して、特にリハビリテーション領域において必須となる基礎知識として骨格や筋肉、関節などの運動器の構造・形態を学ぶ。具体的には筋や骨格がどのように配されて、どのような仕組みで運動するのかを学ぶ。骨格標本を手に触れ部位の名称を学び、さらに筋肉、血管、神経の走行、それらの立体構造や物理力学的な働き、ベクトルやトルクなどと関連付けながら理解を深めることで、高学年の運動学の学修にも直結する。思考力は、予習プリントを用いることで、課題の発見と解答の探索・解決能力を身に着けてゆく。協調性は、Team Based Learning (TBL) 形式の実習によって協調性やコミュニケーション能力を身に着けてゆく。
学修目標 到達目標	1. 下肢骨格の骨名およびその詳細な部位名を正確に言うことができる 2. 筋肉の起始・停止・作用および支配神経を正確に言うことができる 3. 骨格模型を用いて筋肉の起始・停止・作用を毛糸・テープなどで表現することができる 4. 関節の種類と運動を正確に言うことができる。また、自らの身体で表現できる 5. 予習には単なる穴埋めでなく、教科書の中から解答を自力で探し出す「探索力」の獲得も視野に入れるため、具体的な教科書のページ数までは敢えて記載しない。
対面授業の進め方	教員による一方的な講義ではなく、学生が自ら体を動かして学ぶ実習（アクティブラーニング）を原則とする。学生を3～4人1グループに編成し、各グループに骨格標本模型1箱・交連模型を貸与してTBL形式で進行する。さらに毎回、予備学習プリントを配布するので予習を実施すること。主に実習中あるいは復習用の課題材料としてスケッチ課題を与え、これらは最終成績の一部として取り組みに応じた加点をする。いずれも学生が手足を動かして主体的な学習を進めるためのシーズである。対面実習では、毎回チェックリストや実習要領を配布するので、それに従って実習を進行する。各回の最後には確認試問を行い、成績に加味する。
遠隔授業の進め方	原則対面授業で進める。遠隔講義が必要になった場合は、Stream による講義動画配信と Forms による小テストの提出によって実施する。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 骨学実習／下肢の骨格照合、骨盤を構成する骨と大腿骨	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。	
2. 骨学実習／自由下肢の骨ー脛骨、腓骨と股関節、膝関節の構造、運動、靭帯	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。	
3. 骨学実習／足根骨、中足骨の左右判定、半関節	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。	
4. 骨学実習／脳神経と通過する孔	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。	
5. 筋学実習／殿部の筋、大腿の筋膜	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。	
6. 筋学実習／外旋6筋（上下双子筋、梨状筋、内外閉鎖筋、大腿方形筋）	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。	

7. 筋学実習／大腿前面の筋（大腿４頭筋、縫工筋など）	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。
8. 腰仙骨神経叢の構成	配布されたプリントを基に復習を実施する。 該当部位について教科書の図の読み方を確認
9. 筋学実習／大腿後面の筋（ハムストリングの筋）	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。
10. 筋学実習／大腿内転の筋	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。
11. 筋学実習／下腿前面の筋と側面の筋	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。
12. 筋学実習／下腿後面の筋	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。
13. 筋学実習／足部の筋	配布されたプリントを基に復習を実施する。 次回の予備学習プリントを用いて予習する。
14. 筋学実習／固有背筋	教科書に沿った予習
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	■課題・小テスト　20%	□レポート　　%	■定期試験　　80%	□その他　　%
	基準等	授業内容を理解したかの確認試問、予備学習プリント、スケッチ課題を総合して20%換算する。		定期試験中での試験80%換算して判定する。	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	野村 嶬	「標準理学療法学・作業療法学　解剖学第５版」	医学書院	2020
参考図書	横山千仭　他	「解剖学カラーアトラス 第８版」	医学書院	2016
	坂井建雄	「プロメテウス解剖学アトラス　第３版 解剖学総論／運動器系」	医学書院	2017

履修要件等	特段なし		
オープンな教育リソース			
研究室	１号館５階　第８研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12：00～13：00

科目№	FBM06-1R	授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	解剖学実習Ⅱ	担当教員 E-Mail	大篭　友博		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達	必　修	1　単位	後　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	形態・機能学解剖領域Ⅱ、いわゆる座学で学んだ知識を基礎として、骨格や筋肉（骨格筋）、関節などの運動器の構造・形態を学ぶ。筋や骨格がどのような広がりを示し、どのような仕組みで運動するのかを学ぶ。骨格標本を手にとり部位の名称を学び、さらに筋、血管、神経の走行、それらの立体構造や物理力学的な働き、ベクトルやトルクなどと関連付けながら理解を深める。これら運動器の人体標本を用いた実習による修得は、すべての臨床系の専門科目の理解に必須であり、また将来医療従事者として社会貢献するための基盤を身に付けることになる。
学修目標 到達目標	1. 下肢骨格の骨名およびその詳細な部位名を正確に言うことができる 2. 筋肉の起始・停止・作用および支配神経を正確に言うことができる 3. 骨格模型を用いて筋肉の起始・停止・作用を毛糸・テープなどで表現することができる 4. 関節の種類と運動を正確に言うことができる。また、自らの身体で表現できる
対面授業の進め方	実習を基本とする。学生を2人1グループに編成し、各グループに骨格標本模型1箱を貸与する。毎回、実習の学習目標を設定し、口頭試問を行い、学習の達成を図る。骨名はラテン語や英語の名称で覚えることが望ましい。予め、実習要領を配布するので、それに従って予習すること。
遠隔授業の進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、状況により課題の郵送、メールによる配信、Microsoft office365 の teams を使用した双方向通信の授業のいずれかあるいは組み合わせで行う。遠隔授業時の出席確認は毎回の課題の提出により行い、質疑応答については課題の提出に併せて上記通信方法のいずれかで行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 骨学実習／下肢の骨格照合、骨盤を構成する骨と大腿骨	実習要領に沿った予習
2. 骨学実習／自由下肢の骨－脛骨、腓骨と股関節、膝関節の構造、運動、靭帯	実習要領に沿った予習
3. 骨学実習／足根骨、中足骨の左右判定、半関節	実習要領に沿った予習と口頭試問対策
4. 骨学実習／脳神経と通過する孔	実習要領に沿った予習と口頭試問対策
5. 筋学実習／殿部の筋、大腿の筋膜	実習要領に沿った予習と口頭試問対策
6. 筋学実習／外旋6筋（上下双子筋・梨状筋・内外閉鎖筋・大腿方形筋）	実習要領に沿った予習と口頭試問対策
7. 筋学実習／大腿前面の筋（大腿四頭筋、縫工筋）	実習要領に沿った予習と口頭試問対策
8. 腰仙骨神経叢の構成	実習要領に沿った予習と口頭試問対策
9. 筋学実習／大腿後面の筋（ハムストリングス）	実習要領に沿った予習と口頭試問対策
10. 筋学実習／大腿内転の筋	実習要領に沿った予習と口頭試問対策
11. 筋学実習／下腿前面の筋と側面の筋	実習要領に沿った予習と口頭試問対策
12. 筋学実習／下腿後面の筋	実習要領に沿った予習と口頭試問対策
13. 筋学実習／足部の筋	実習要領に沿った予習と口頭試問対策
14. 筋学実習／固有背筋	実習要領に沿った予習と口頭試問対策
定 期 試 験　（期 末 レ ポ ー ト）	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	■課題・小テスト　20%	□レポート　　%	■定期試験　　80%	□その他　　%
	基準等	授業内容を理解したかの確認試問を毎回行う。レベルに達するまで行う。	特段のレポート課題はしない	定期試験中での実習試験80%換算して判定する。	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	野村 嶬	「標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　解剖学　第５版」	医学書院	2020
参考図書	細田多穂	運動器系解剖学テキスト	南江堂	2015
	坂井建雄 松村譲兒	「プロメテウス解剖学アトラス　解剖学総論／運動器系　第３版」	医学書院	2017
	佐藤達夫　訳	「人体解剖カラーアトラス 第８版」	南江堂	2016
履修要件等	特段なし			
オープンな教育リソース				
研究室	１号館５階　第８研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12：00～13：00	

科目№	FBM01-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	解剖学Ⅰ	担当教員 E-Mail	大篭　友博		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	基礎医学	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	本科目は本学のディプロマポリシーである「リハビリテーション領域における基礎知識の養成・思考力の養成」を達成するための科目である。ヒトのからだは細胞から構成され、組織、器官、個体へと統合される。前期の本科目ではヒトのからだを植物性機能と動物性機能に分けて、植物性機能を有する各器官が身体のどこに配置され、どのような形態・構造・仕組みであるかを、組織学・細胞学、発生学などの多様な知見に立って正常系統学的に学ぶ。また、機能学的な関連的側面からも考察を進め「人体」を総合的に理解してゆく。思考力は、復習プリントを用いることで、課題の発見と解答の探索・解決能力を身に着けてゆく。
学修目標 到達目標	1. 体腔という概念を理解し、そこに収まる器官の配置と関連性を理解することができる 2. 消化・吸収機能を持つ器官の形態と構造について、正確に理解することができる 3. 呼吸と発声メカニズムについての器官の形態と構造について、正確に理解することができる 4. 心臓を中心とした血液循環器系およびリンパ系について、正確に理解することができる 5. 泌尿器系での尿生成器官、生殖器系での生殖子発生について、正確に理解することができる
対面授業の 進め方	講義形式。本講義ではスライド提示とハンドアウト資料への書き込みをメインとする形態で進めるが、適宜模型や質疑応答を用いたアクティブラーニング手法を取り入れる。ハンドアウト資料への主体的な書き込みを行うこと。イメージしにくい 3 次元構造や重要な点は、模型を用いたグループワークを行う。また講義の最後に、各回の復習用課題として穴埋め式問題を配布し、次の回の講義の冒頭で解答を提示する。これらは学生が手足を動かして主体的な学習を進めるためのシーズである。
遠隔授業の 進め方	対面講義で進めるが、復習のために Office365 Stream 上に講義動画を準備する。 講義内容に関する質問は随時メールでも受け付ける。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30 分以上
1. 解剖学総論－解剖学とは（形態と機能）—解剖学の考え方、生物学における解剖学の位置、解剖学の種類、解剖学的正位、解剖学用語と方向用語 pp.5-8	教科書の該当部分を一読しておくこと。 高校での生物学の基礎知識および国語の漢字能力
2. 細胞、器官、系統、細胞内小器官とその機能、遺伝子と DNA、遺伝情報の仕組み、上皮と支持組織、器官から個体へ pp.8-20	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
3. 消化器系Ⅰ－口腔、歯、舌、唾液腺とその分泌 pp.333-334、370-373	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
4. 消化器系Ⅱ－咽頭、食道・胃・十二指腸の構造、消化管と腹膜 pp.361-362, 373-378, 380	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
5. 消化器系Ⅲ－実質器官である肝臓、膵臓、胆嚢と胆汁分泌、血糖値の調節 pp.378-383	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
6. 呼吸器系Ⅰ－鼻腔、咽頭・喉頭、気管・気管支、呼吸の仕組み p.360-366	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
7. 呼吸器系Ⅱ－肺区域、縦隔、副鼻腔、発声のメカニズム pp.366-369	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
8. 循環器系Ⅰ－体循環と肺循環、心臓の構造と特殊伝導系 pp.335-340	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施

9. 循環器系Ⅱ－主な動脈とリンパ管、胎児循環 pp.340-350, 355-359	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
10. 循環器系Ⅲ－門脈と側副循環路、硬膜静脈洞、奇静脈 pp.350-355	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
11. 泌尿器系－腎臓の構造、尿の生成と血圧調整、膀胱、尿路 pp.384-389	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
12. 内分泌系－内分泌線と外分泌線、膜タンパクと液性調節 pp.398-406	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
13. 自律神経系－交感神経と副交感神経 pp.311-314	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
14. 生殖器系Ⅰ－男性生殖器 pp.390-392、生殖器系Ⅱ－女性生殖器、発生学 pp.392-397	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート 0%	■定期試験 80%	□その他 0%
	基準等	毎回の授業後に配布する課題の点数を20%加算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択や穴埋めで出題し、その成績を80%換算する。	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	野村嶬	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第５版	医学書院	2020
参考図書	相磯貞和 訳	ネッター解剖学カラーリングテキスト	南江堂	2011
履修要件等	特段なし			
オープンな教育リソース				
研究室	１号館５階 第８研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12：00～13：00	

科目№	FBM02-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	解剖学Ⅱ	担当教員 E-Mail	大篭　友博		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	基礎医学	必　修	1　単位	後　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	本科目は本学のディプロマポリシーである「リハビリテーション領域における基礎知識の養成・思考力の養成」を達成するための科目である。前期の解剖学Ⅱの内容を基礎として、後期では言語聴覚学で必要となる発生学および神経系を中心としての形態と構造を、組織学・細胞学、発生学などの多様な知見に立って正常系統学的に理解する。また、機能学的な側面からも考察して「人体」を総合的に理解してゆく。思考力は、復習プリントを用いることで、課題の発見と解答の探索・解決能力を身に着けてゆく。
学修目標 到達目標	1. 受精から出生までの器官形成について正確に理解することができる 2. 神経系の構造を中枢神経と末梢神経に分けて正確に理解することができる 3. 上・下行性伝導路、特殊感覚路についてその経路と機能が正確に理解することができる
対面授業の進め方	講義形式。本講義ではスライド提示とハンドアウト資料への書き込みをメインとする形態で進めるが、適宜模型や質疑応答を用いたアクティブラーニング手法を取り入れる。ハンドアウト資料への主体的な書き込みを行うこと。イメージしにくい 3 次元構造や重要な点は、模型を用いたグループワークを行う。また講義の最後に、各回の復習用課題として穴埋め式問題を配布し、次の回の講義の冒頭で解答を提示する。これらは学生が手足を動かして主体的な学習を進めるためのシーズである。
遠隔授業の進め方	対面講義で進めるが、復習のために Office365 Stream 上に講義動画を準備する。 講義内容に関する質問は随時メールでも受け付ける。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30 分以上
1. 筋学 1 -総論、発声に関わる筋、咽頭と喉頭の構造 pp.161-176, 361-366	教科書の該当部分を一読しておくこと。
2. 筋学 2 -咀嚼運動、嚥下反射とそれに関わる筋および神経 pp.178-184, 381-383	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
3. 発生学 1 -配偶子形成、受精、着床、卵割、胚胞の形成 pp.21-24	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
4. 発生学 2 -三層性胚盤、神経管、体節、消化管発生 pp.24-26	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
5. 器官発生 1 -咽頭器官、舌、顔面 pp.28-29	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
6. 器官発生 2 -呼吸器、耳の発生 pp.21-26	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
7. 特殊循環 -胎児循環、脳底動脈系、硬膜静脈洞 pp.352-355, 335, 340-344	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
8. 脳神経 1 第 1~6 脳神経と視覚器 pp.300-305, 323-326	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
9. 脳神経 2 第 7~12 脳神経と味覚、聴覚・平衡覚 pp.305-311,326-332	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
10. 中枢神経 1 神経系の発生、中枢神経の区分とその機能、脳幹 pp.237-249	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施

11. 中枢神経 2 大脳の区分と脳地図、機能局在、優位半球 pp.256-265	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
12. 中枢神経 3 下行性伝導路 pp.274-277	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
13. 中枢神経 4 上行性伝導路、特殊感覚路 pp.268-274	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
14. 中枢神経 5 大脳辺縁系、papez 回路 pp.259-261	教科書の該当部分を一読しておくこと。 前回の講義内容の復習プリントの実施
定 期 試 験（定期試験期間における筆記試験で、資料は持ち込み不可）	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート 0%	■定期試験 80%	□その他 0%
	基準等	毎回の授業後に配布する課題の点数を20%加算する。	特段のレポート課題はしない	国試形式の多肢選択や穴埋めで出題し、その成績を80%換算する。	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	野村 嶬	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第５版	医学書院	2020
参考図書	相磯 貞和 訳	ネッター解剖学 カラーリングテキスト	南江堂	2011
	寺島 俊雄	カラー図解 神経解剖学講義ノート	金芳堂	2011
	ゲイリー C. シェーンウォルフ	カラー版 ラーセン 人体発生学 第４版	西村書店	2013

履修要件等	特段なし		
オープンな教育リソース			
研究室	１号館５階 第８研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12：00～13：00

科目№	FBM07-1R	授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	生理学実習	担当教員 E-Mail	坪田　裕司		

基本項目	専　　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達	必　修	1単位	後期（30h）
	作業療法学				

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	身体の異常を把握・理解する為には、正常な姿を理解しておく必要があることはいうまでもない。生理学実習では、座学の生理学で学習した内容を、実験実習を通して経験し具体性のあるイメージとして理解する。論文形式でレポートを作成し、データのまとめ方とその評価についても学習する。実習なので、３コマ連続で行い、実験実習とその考察を班で進め、アクティブラーニング(グループワーク）を主体に進める。休憩時間等は適宜設定する。班構成は毎回ランダムに設定する。
学修目標 到達目標	1. 人体の基本的生理機能を理解し、実習に関連する生理学的背景情報を理解できる 2. 得られた結果を自分の言葉で説明できる 3. 実習結果について他の人と論理的に討論出来る 4. 実習内容を簡潔に論文形式でまとめ、論理的な言葉と文章で考察出来る 5. 誰とでもコミュニケーションを取り課題をこなせる
対面授業の進め方	5～6 名単位で班を作り、各自が自主性を持って実験に当たる。被験者等の役目が偏らないように全員で実習すること。結果として得られたデータについては共有して、各班で討論して考察を深めるが、実習レポートは個人で作成し、自分の文章でまとめること。実験器具の準備や後片づけも積極的に責任持って行う。運動系の人体生理実習では短パン等の軽装運動着、それ以外では白衣を着用する等、実習しやすい服装で出席すること。
遠隔授業の進め方	遠隔での実施になった場合は、Teams-Stream にての動画配信をベースに進める。課題やレポートは Teams-Form により課す。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30 分以上
1. オリエンテーション	実習書を配布し留意事項等を把握する	
2. 表皮感覚	実習書の該当章を理解する。	
3. データのまとめ方と報告書レポートの書き方	実習書の該当章を理解する。	
4. 神経伝導速度	実習書の該当章を理解する。	
5. 神経伝導速度	実習書の該当章を理解する。	
6. 神経伝導速度、小テスト	実習書の該当章を理解する。	
7. ヒト心電図測定と各自の電気軸作成	実習書の該当章を理解する。	
8. ヒト心電図測定と各自の電気軸作成	実習書の該当章を理解する。	
9. ヒト心電図測定と各自の電気軸作成	実習書の該当章を理解する。	
10. 運動負荷と心拍数	実習書の該当章を理解する。	
11. VO2max の測定と体力評価	実習書の該当章を理解する。	
12. VO2max の測定と体力評価	実習書の該当章を理解する。	
13. 腎機能、水負荷試験と排尿量の調節	実習書の該当章を理解する。	
14. 腎機能、水負荷試験と排尿量の調節	実習書の該当章を理解する。	
15. 腎機能、水負荷試験と排尿量の調節	実習書の該当章を理解する。	
総括としては、個別レポート課題への添削とフィードバックをこれに当てる。		

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 15%	■レポート　40　%	■その他　　45　%	□備考
	基準等	項目により課題を出す。グループワークにおける貢献度を評価する。	実習レポート（2回の提出を義務とする）を加味して評価する	実習態度，実習への参加度を重視する。特に班でのグループワークにおける貢献度を評価する。	3回（1日）欠席者は評価C以上あるいはDが2回のレポートがないと単位が認定されない

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	Kim E. Barrett　他著 岡田泰伸　他訳	「ギャノング生理学 原書26版」	丸善	2022
参考図書	桑名俊一　編著	「メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ 新版　生理学」	理工図書	2020
履修要件等	高校生物学履習済みもしくは生物学履習中であること。			
オープンな教育リソース				
研究室	1号館5階 第11研究室	オフィスアワー	毎週月曜日　16：20～17：30	

科目№	FBM03-1R	授業形態	講義	開講年次	１年次
授業科目名	生理学（ＳＴ）	担当教員 E-Mail	堂西　倫弘		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	基礎医学	必　修	1　単位	後　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	命とは何か？　生きているとはどういうことか？　生理学ではこの問いを科学的に考えていく。本科目は本学のディプロマ・ポリシーの１つ「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」およびカリキュラム・ポリシー（1年次）に則り、正常な人体を維持するための細胞、組織や器官のはたらきについて学修する。
学修目標 到達目標	1. 正常な人体のはたらきを説明できる 2. 専門分野の学習へ向けて、正常な聴覚について説明できる 3. 解剖学および臨床医学との関連を説明できる
対面授業の進め方	教科書、スライドを使用する。適宜、演習を行う。 教科書の内容を丸暗記させず、実体験にもとづいて人体のはたらきを理解するよう促す。
遠隔授業の進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、Microsoft office365 の Teams を利用して授業のライブ配信を行う

授業計画	授業時間外に必要な学修	30 分以上
1.　第１章：生理学の基礎	該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい	
2.　第２章：神経の基本的機能	該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい	
3.　第３章：神経系の機能	該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい	
4.　第４章：感覚の生理	該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい	
5.　第５章：筋肉・運動の生理	該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい	
6.　第６章：運動の制御機構	該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい	
7.　第７章：血液の生理	該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい	
8.　第８章：循環の生理	該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい	
9.　第９章：呼吸	該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい	
10.　第 10 章：消化・吸収	該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい	
11.　第 11 章：栄養・代謝	該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい	

12.　第 12 章：腎臓の生理　／　第 13 章：体液の恒常性	該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい
13.　第 14 章：内分泌	該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい
14.　第 15 章：体温の調節	該当範囲を予め読み、講義後はノートまとめ等での復習を行うことが望ましい
定 期 試 験	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法					
	項目	■課題・小テスト 10 ％	□レポート　　％	■定期試験　80 ％	■その他　10　％
	基準等	復習のための課題を随時実施する		定期試験で講義内容全般についての理解度を評価する	授業への取り組み方

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	桑田俊一・荒田晶子	「メディカルスタッフ専門基礎科目シリーズ 新版　生理学」	理工図書	2020
参考図書	Kim E. Barrett 他著 岡田泰伸　他訳	「ギャノング生理学 原書 26 版」	丸善	2022
履修要件等				
オープンな教育リソース				

研究室	1 号館 1 階　非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問を受け付ける。

科目№	FBM08-1R, FBM08-1E	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	運動学	担当教員 E-Mail	佐伯　純弥		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、 人体の構造と機能及び身体の発達	必　修	1　単位	前　期（16h）
	作業療法学				
	言語聴覚学	基礎医学	選択必修		

教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として10年以上の運動器リハビリテーションの実務経験のある教員が、その経験をもとに身体運動のしくみについて講義を行う。
授業内容の要約	姿勢の調整や身体の運動について力学的に説明する方法を、身近な例や演習を用いながら学ぶ。
学修目標 到達目標	1. 身体運動の力学的な背景や、用語・公式を説明することができる。 2. 身体重心や関節モーメントを計算することができる。
対面授業の進め方	講義・演習を主体とした授業とし、演習はディスカッションを伴うアクティブラーニングとする。授業に用いる資料は適宜配布する。
遠隔授業の進め方	遠隔授業の場合、Microsoft office365 Teams を利用して講義を行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 重さと質量、身体の重心	授業内容の復習	
2. 力の合成と分解、作用と反作用	授業内容の復習	
3. 並進運動と運動の法則	授業内容の復習	
4. 回転運動とモーメント①	授業内容の復習	
5. 回転運動とモーメント②	授業内容の復習	
6. エネルギーとパワー	授業内容の復習	
7. これまでの復習、理解度の確認	授業内容の復習	
定期試験（期末レポート）		
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート　　%	■定期試験　70　%	□その他　　%
	基準等	小テスト・課題の取り組み状況を評価する		授業内容の理解度を評価する	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	特になし			
参考図書	江原義弘	姿勢と運動の力学がやさしくわかる本	ナツメ社	2020

履修要件等	
オープンな教育リソース	

研究室	1号館5階 第3共同研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 12：10～13：00

科目№	FBM09-1R，FBM05-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	病理学	担当教員 E-Mail	中村　美砂		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達	必　修	1　単位	後　期（30h）
	作業療法学				
	言語聴覚学	基礎医学			

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	「病気はどんな原因（病因）で起こり、体にどういう変化（病変）を起こすか」を学修し、病気についての正しい理解を行う。健康な体に主軸をおいた科目である解剖学・生理学に対し、病理学は、病気の体に主軸をおいた科目である。本授業により、医学的基礎を修得する。
学修目標 到達目標	1.　病理学用語を定義に従って用いることができる 2.　各種病気の成り立ち、病因について、形態学的変化と関連させて説明できる 3.　臨床医学における病理診断の役割を説明できる
対面授業の進め方	授業は、教科書と配布プリントに沿って行う。 解剖学や生理学などの知識が必要となるので、これらを復習しながら受講すること。
遠隔授業の進め方	対面授業が出来なくなった場合、Teams によるオンライン講義と Stream による動画配信によって行う。毎回、課題の提出をもって出席とする。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1.　病理学とは何か。細胞障害と細胞増殖 （細胞障害　教科書 pp.1～22）	進行性病変と退行性病変についてまとめる。
2. 組織、細胞の修復と再生　（創傷治癒　教科書 pp.23～32）	創傷治癒の過程についてまとめる。
3. 循環障害Ⅰ（梗塞循環器系の基礎　教科書 pp.33～41）	局所的循環障害とまとめる。
4. 循環障害Ⅱ（循環障害　教科書 pp.41～48）	全身的循環障害についてまとめる。
5. [小テスト①] 炎症（急性炎症・慢性炎症　教科書 pp.49～60）	急性炎症と慢性炎症についてまとめる。
6. 感染症　（感染症　教科書 pp.61～70）【宇都宮洋才】	病原体の種類とそれらによって生じる感染症をまとめる。
7.　免疫機構の異常Ⅰ（免疫系の基礎　教科書 pp.71～81）	アレルギー反応の分類とそれぞれの代表的疾患についてまとめる。
8. 免疫機構の異常Ⅱ（免疫疾患　教科書 pp.82～85）	自己免疫疾患についてまとめる
9. 遺伝と先天異常（遺伝性疾患　教科書 pp.87～101）	代表的な染色体異常症および遺伝性疾患についてまとめる。
10. [小テスト②] 腫瘍Ⅰ（腫瘍の性質　教科書 pp.103～108）	腫瘍の概念と命名法についてまとめる。
11. 腫瘍Ⅱ（腫瘍の原因・転移　教科書 pp.109～126）	悪性腫瘍の進展と転移様式についてまとめる。
12. 代謝異常（タンパク質・脂質代謝・糖・ミネラル代謝の異常　教科書 pp.127～135）	糖代謝異常症の原因と病態についてまとめる。
13. 老化（老化に伴う疾患　教科書 pp.137～150）	脂質代謝異常症などの原因と病態についてまとめる。
14. グループディスカッション	一つの疾患について、その病変部を顕微鏡で観察し、その特徴についてグループでまとめる。
定 期 試 験　（期末）	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	試験で不正解の領域をもう一度復習する。

成績評価方法	項目	■課題・小テスト　20%	■レポート　5%	■定期試験　75%	□その他　%
	基準等	指定した講義の内容について小テスト（2回）を実施し、理解度を評価する。	14回目のレポート内容を評価する。	全講義の内容についての理解度を評価する。	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	笹野公伸　他	「シンプル病理学　改訂第８版」	南江堂	2020
参考図書	北川昌伸・仁木利郎	「標準病理学　第７版」	医学書院	2023
履修要件等	受講にあたり、教科書を必ず購入すること。			
オープンな教育リソース				
研究室	１号館５階　第10研究室	オフィスアワー	毎週月曜日　13:00～14:30	

科目№	FBM10-1R，FBM06-1E	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	発育発達学（含運動発達学）	担当教員 E-Mail	畑中　良太・髙橋　泰子		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達	必　修	1　単位	後　期（16h）
	作業療法学				
	言語聴覚学	基礎医学	選択必修		

教員の実務経験と授業内容の関連	小児、成人、高齢者を対象とする施設で勤務経験のある教員が生涯を通じた発達について講義する
授業内容の要約	本学のディプロマ・ポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」を達成するための科目です。教育課程における専門基礎科目である。発育発達学は受精卵から始まり人の死までを論じる学問である。身体のみならず認知面も含んでおり、生きる意味や人生における様々な問題まで広く深く考える内容である。リハビリテーション学を学ぶ上での基礎的内容である。
学修目標 到達目標	1. 発達理論を理解できる。 2. 各ライフステージの特徴について説明できる。 3. 各種発達検査を説明できる。
対面授業の進め方	概要を講義形式にて行い、適宜、実習や演習を交えた体験学習を実施する。
遠隔授業の進め方	Microsoft office 365 の teams、form、stream を使用し、双方向通信の授業を行う。 オンデマンド配信、課題配信を組み合わせて行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 人間発達の概念（教科書ｐ2 ～ 27）	講義内容を復習しノートにまとめる。
2. 胎児・乳児期・幼児期・学童期（教科書ｐ28 ～ 86 ）	講義内容を復習しノートにまとめる。
3. 学童期・青年期・成人期・高齢期（教科書ｐ87 ～ 151 ）	講義内容を復習しノートにまとめる。
4. 姿勢調整・移動運動（教科書ｐ152 ～ 181 ）	講義内容を復習しノートにまとめる。
5. 視覚・眼球運動、ハンドスキル（教科書ｐ182 ～ 200 ）	講義内容を復習しノートにまとめる。
6. 聴覚・言語の機能と発達（教科書ｐ201 ～ 219）	講義内容を復習しノートにまとめる。
7. 心理・社会的機能・発達検査（教科書ｐ220 ～ 276 ）	講義内容を復習しノートにまとめる。
定期試験	
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	講義内容を復習しノートにまとめる。

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	□レポート　%	■定期試験　90%	■その他　10%
	基準等			教科書及び配布資料から出題し理解度を評価する。	まとめ学習の成果物

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	福田恵美子　編集	コメディカルのための専門基礎分野テキスト 人間発達学　改訂６版	中外医学社	2022
参考図書	浅野大喜	Crosslink basic　リハビリテーションテキスト 人間発達学	メジカルビュー社	2021

履修要件等	無し		
オープンな教育リソース			
研究室	畑中：研究科棟４階　142研究室 髙橋：１号館５階　第17研究室	オフィスアワー	畑中：毎週月曜日　12:00～13:00 髙橋：毎週水曜日　12:10～13:00

科目№	FBM13-1E，FBM04-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	医学概論	担当教員 E-Mail	岡田　守弘		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	基礎医学、人体の構造と機能及び身体の発達	選択必修	1　単位	前　期（16h）
	作業療法学				
	言語聴覚学	基礎医学	必　修		

教員の実務経験と授業内容の関連	大学付属病院消化器内科・総合診療内科・麻酔科・救急集中治療部及び急性期総合病院内科・救急科での25年以上の臨床経験のある教員が、医学概論について講義する。
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、これから学ぶ臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。 近年療法士はチーム医療の一員としての役割が増大し、他職種との連携がますます重要となっている。このため、専門領域のみならず幅広い医学知識が要求される。本講座では医療人として、チーム医療の一員として必要な医学的知識の習得を目指す。
学修目標 到達目標	1. 医療人としての倫理観をもって患者対応ができる 2. 医療の現状を理解し、チーム医療を実践できる 3. 本講座で学んだ医学的知識を専門科目の学習や臨床現場で応用することができる
対面授業の進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。また、社会的に関心の高いテーマを選んで、ディスカッションを行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学の知識が必要である。これらの科目を併行して学習しておくことが望ましい。
遠隔授業の進め方	対面授業が困難な場合、TEAMS による遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り対質疑応答も行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 健康の維持は食生活と運動習慣にある・なぜ病気になるか（教科書 pp1～24）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
2. なぜがんになるか・病気の診断はどのように行われるか（教科書 pp25～46）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
3. さまざまな治療法がある・近代医学は消毒法と麻酔法の発見から開花（教科書　pp47～66）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
4. 医療はチームで行う・治療法は患者が決める（教科書　pp67～86）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
5. 医療を安全に行うにはどうするか・日本の医療制度は世界一か（教科書　pp87～108）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
6. 病気予防のための対策はあるか・医の倫理とはなんだ（教科書 pp109～126）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
7. 脳死があって臓器移植がある・死への対応をどうするか（教科書 pp127～146）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
8. 試験	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　　%	□レポート　　%	■定期試験　80%	■その他　20%
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。

<table>
<tr><td rowspan="2">教科書</td><td>著者</td><td colspan="2">タイトル</td><td>出版社</td><td>発行年</td></tr>
<tr><td>高崎眞弓</td><td colspan="2">「医療概論 ―医療従事者のコモンセンス 14 章―」</td><td>総合医学社</td><td>2019</td></tr>
<tr><td>参考図書</td><td>特に指定しない</td><td colspan="2"></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>履修要件等</td><td colspan="5">形態・機能学を履修しておくことが望ましい</td></tr>
<tr><td>オープンな
教育リソース</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>研究室</td><td colspan="2">1 号館 5 階 第 15 研究室</td><td>オフィスアワー</td><td colspan="2">毎週月曜日 16:20～17:50</td></tr>
</table>

科目№	FCM04-1R,	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	精神医学	担当教員 E-Mail	堺　景子		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	必　修	1　単位	後　期（30h）
	作業療法学				
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学			

教員の実務経験と授業内容の関連	精神科病院で20年以上の臨床経験のある教員が、講義中に精神疾患患者の症例検討を行い、精神疾患の病態や精神疾患患者が抱える様々な問題を理解できるよう講義を行う。
授業内容の要約	本講義では、精神疾患の成因、症状、診断法、治療法、経過などについての基礎的知識を理解し修得する。精神疾患について正しく理解し、精神疾患を抱える本人や家族への心理的・社会的背景にも配慮しながら、障害に応じた治療計画が立案できるようになる。
学修目標 到達目標	1.　各精神疾患の概要を理解し説明することができる。 2.　精神疾患を抱える人々の心理的・社会的問題を理解し、どのような治療やリハビリテーションが必要かを考えることができる。 3.　精神疾患を抱える人々の障害に応じた治療計画を立案できる。
対面授業の進め方	講義形式で行う。毎回講義スライドをプリントとして配布するので、適宜加筆すること。授業時間内に毎回小テストを行う。
遠隔授業の進め方	基本的に対面授業を行うが、遠隔授業になった場合は、stream 上に授業動画のアップロードを行う。動画配信後、課題を配布する。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 精神医学総論Ⅰ（精神科医療の歴史）	毎回の講義内容、および授業中に行う小テストの復習をすること。	
2. 精神医学総論Ⅱ（精神科医療の現状）		
3. 精神医学総論Ⅲ（精神科医療に関連する法律）		
4. 精神医学総論Ⅳ（精神症状と診断分類）		
5. 治療（薬物療法とリハビリテーション）		
6. 疾病Ⅰ（器質性精神障害、症状性精神障害）		
7. 疾病Ⅱ（精神作用物質による精神および行動の障害１）		
8. 疾病Ⅱ（精神作用物質による精神および行動の障害２）		
9. 疾病Ⅲ（統合失調症１）		
10. 疾病Ⅲ（統合失調症２）		
11. 疾病Ⅳ（気分障害）		
12. 疾病Ⅴ（神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害）		
13. 疾病Ⅵ（人格障害、知的障害、発達障害等）		
14. 疾病Ⅶ（摂食障害、睡眠障害等）		
定 期 試 験		
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　　%	□レポート　　%	■定期試験　　100%	□その他　　%
	基準等			定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	上野武治	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版	医学書院	2021
参考図書				

履修要件等			
オープンな 教育リソース			
研究室	研究科棟４階　146 研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12：30～13：30

科目№	FCM09-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	臨床心理学	担当教員 E-Mail	堺　景子		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学 作業療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	必　修	1　単位	後　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	臨床心理学の成り立ちや基本概念、代表的な理論を習得する。心理に関する支援を要する人々に対しての代表的な介入方法を習得する。
学修目標 到達目標	1　臨床心理学の歴史、代表的な理論体系や介入方法を説明することができる。 2　本講義で学ぶ代表的な基礎理論に基づき、心理に関する支援を要する人々に対して、適切な支援方法を判断することができる。 3　心理に関する支援を要する人々との信頼関係を構築するにあたり、支援者にはどのような態度や姿勢が求められるのかについて主体的に考えることができる。
対面授業の進め方	講義形式で行う。毎回講義スライドをプリントとして配布するので、適宜加筆すること。授業時間内に毎回小テストを行う。
遠隔授業の進め方	やむを得ず遠隔授業になった場合は、Microsoft office 365 の stream を使用して動画を配信する。動画配信後、課題を配布する。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1.　臨床心理学とは	授業内容・小テストの復習	
2.　パーソナリティ理論	授業内容・小テストの復習	
3.　発達理論	授業内容・小テストの復習	
4.　学習理論	授業内容・小テストの復習	
5.　心理アセスメント	授業内容・小テストの復習	
6.　心理検査①（質問紙法）	授業内容・小テストの復習	
7.　心理検査②（投影法）	授業内容・小テストの復習	
8.　心理検査③（知能検査、発達検査、神経心理学的検査）	授業内容・小テストの復習	
9.　心理的介入①（精神分析的アプローチ）	授業内容・小テストの復習	
10.　心理的介入②（行動療法／認知行動療法的アプローチ）	授業内容・小テストの復習	
11.　心理的介入③（パーソンセンタードアプローチ）	授業内容・小テストの復習	
12.　心理的介入④（遊戯療法、箱庭療法、芸術療法）	授業内容・小テストの復習	
13.　心理的介入⑤（家族療法、日本固有の心理療法）	授業内容・小テストの復習	
14.　心理臨床活動の実践	授業内容・小テストの復習	
定 期 試 験		
15.　総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	■課題・小テスト　%	□レポート　%	■定期試験　100%	□その他　%
	基準等			定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	特に指定しない			
参考図書				
履修要件等				

オープンな 教育リソース			
研究室	研究科棟４階　146 研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12：30〜13：30

科目№	FCM10-1R, FCM11-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	一般臨床医学	担当教員 E-Mail	岡田　守弘		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	臨床医学、疾病の原因と治療	必　修	1　単位	後　期（30h）
	作業療法学				
	言語聴覚学	臨床医学および歯科学			

教員の実務経験と授業内容の関連	大学付属病院消化器内科・総合診療内科・麻酔科・救急集中治療部及び急性期総合病院内科・救急科で25年以上臨床経験のある教員が、一般臨床医学について講義する
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「 豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を達成するための科目です。当該科目は教育課程における専門基礎科目であり、これから学ぶ臨床医学、専門科目の基礎となる科目である。 本学カリキュラムで比較的授業時間の多い内科学、精神医学、整形外科学のほかにも、多くの疾患に精通しておくことは医療人にとって必須である。本講座では救急医学、皮膚科学、産婦人科学、泌尿器科学、眼科学、耳鼻咽喉科学、老年医学、基礎薬理学、基礎予防医学などについて、医療人として「これだけは知っておいてほしい」疾患を中心に解説する。
学修目標 到達目標	1. PT, OT, ST にとって必要な医学知識・基礎的な予防医学を習得できる 2. 学んだ疾患の知識を臨床現場で応用することができる 3. 臨床現場で求められる基本的な薬理学を理解できる 4. 基礎的な救急医学を理解できる
対面授業の進め方	講義形式で行い、間に質疑応答を行う。また、社会的に関心の高いテーマを選んで、ディスカッションを行う。疾患を理解するうえで、解剖学、生理学の知識が必要である。これらの科目を併行して学習しておくことが望ましい。
遠隔授業の進め方	TEAMS による遠隔授業を行う。双方向の授業とし、できる限り質疑応答も行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 概論	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
2. 救急医療（教科書 p1~11）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
3. 外科総論（教科書 p13~21）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
4. 脳神経外科総論（教科書 p23~30）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
5. 皮膚疾患①（教科書 p35~55）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
6. 皮膚疾患②（教科書 p35~55）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
7. 泌尿器科疾患①（教科書 p57~73）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
8. 泌尿器科疾患②（教科書 p57~73）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
9. 婦人科・産科疾患①（教科書 p75~92）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
10. 婦人科・産科疾患②（教科書 p75~92）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
11. 眼疾患（教科書 p97~103）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
12. 耳鼻咽喉科疾患①（教科書 p105~116）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
13. 耳鼻咽喉科疾患②（教科書 p105~116）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
14. 老年医学、薬理学基礎（教科書 p119~12）	復習（板書内容を整理し、ノートにまとめる）
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	□レポート　%	■定期試験　80　%	■その他　　20　%
	基準等			定期試験にて授業内容全般についての理解度を評価する。	授業中の質疑応答にて理解度を評価する。遅刻、無断退室、講義中の私語・スマートフォンの使用等は減点の対象とする。

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	椿原彰夫　他	PT・OT・ST のための一般臨床医学 第 3 版	医歯薬出版社	2014
参考図書	特に指定しない			
履修要件等	形態・機能学を履修しておくことが望ましい			
オープンな教育リソース				
研究室	1 号館 5 階 第 15 研究室	オフィスアワー	毎週月曜日 16:20～17:50	

科目№	FHW04-1R，FHW03-1R	授業形態	講義	開講年次	１年次
授業科目名	社会保障制度	担当教員 E-Mail	野村　和樹		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学 作業療法学 言語聴覚学	保健医療福祉とリハビリの理念	必　修	１　単位	前　期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	今日の社会保障の理念をはじめ、その現状、法体系、社会保障をめぐる情勢などを概観し、社会保険、公的扶助、社会福祉、医療・公衆衛生の制度の概要および基礎的知識を習得する。また、今日問題となっている事例を取り上げ、実際の社会保障の施策を検証する。 社会保障制度を理解することで、社会資源を活用できるようになりコミュニケーションを図る上で、話題を提供することができる。 また、社会福祉学において学修した福祉の理念等が制度施策に生かされていることが確認できる。関係法規において学ぶ法規の実際の運用の理解につながる。
学修目標 到達目標	1. 社会保障の理念が理解できる 2. 日本の社会保障制度を大別でき、それぞれの現状が理解できる 3. 社会保障の各種制度についての法規やしくみ，具体的内容、運用等について説明できる
対面授業の進め方	講義形式で授業を進める。教科書は用いずレジュメを配布し授業を進めるので、A4 版のファイルを用意すること。講義内で知識の整理を図るため小テストを実施
遠隔授業の進め方	時間割にある対面授業の時間に、ライブにて遠隔授業を行う。通信障害、正当な理由により、その時間に受講できなかった場合は、録画されたものを視聴しレポート提出を持って出席とする。したがって、原則授業の進め方は対面授業に同じ。レジュメについては、登校日に配付。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30 分以上
1.　「社会保障」における社会保険	社会保険の役割を整理すること	
2.「医療」に関わる保障Ⅰ　　医療保障における医療保険の役割	医療保険の役割を整理すること	
3. 医療保険制度Ⅰ　　日本における医療保険の制度と仕組み	医療保険制度をまとめること	
4. 介護保険制度Ⅰ　　介護保険制度の制定	介護保険制度制定までの過程を整理すること	
5. 介護保険制度Ⅱ　　介護保険制度の仕組み	介護保険制度をまとめること	
6. 年金保険制度、雇用保険，労災保険	それぞれの社会保険制度をまとめること	
7. 公的扶助　生活保護制度Ⅰ　生活保護制度の理解	生活保護制度の運用について整理すること	
8. 貧困問題　児童の貧困の実情，貧困率，社会手当	児童の貧困問題についてまとめること	
定 期 試 験　（期 末 レ ポ ー ト）		

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	□レポート　%	■定期試験　80%	■その他　20%
	基準等			全般に渡る範囲から理解度をはかる。	要点を整理したプリントを作成

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	各項目に応じてレジュメを配布する			
参考図書	講義内で適宜紹介する			
履修要件等	社会福祉学　を合わせて受講されていることが望ましい			
オープンな教育リソース				
研究室	１号館４階第１研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10～13:00	

科目№	SBP01-1R	授業形態	講義	開講年次	１年次
授業科目名	理学療法学概論	担当教員 E-Mail	阿部　真二		

基本項目	専　　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学	必　修	１　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として 34 年の臨床経験があり、医療施設・介護施設において急性期・回復期・生活期の理学療法に携わってきた経験を基に指導にあたる。
授業内容の要約	理学療法の概念や歴史の他、対象や方法、役割、活動内容などを理解するとともに、理学療法士に関係する法律や倫理などについても学び、社会に貢献する理学療法士の基礎力を養成するとともに、リハビリテーション・マインドや理学療法士の現実を感じられる機会をもうけ、今後４年間学修していく基盤固めを目指す。
学修目標 到達目標	１．理学療法の概略を理解し、これから履修する科目の必要性を理解できる。 ２．理学療法とリハビリテーションの違いを理解し、リハビリテーションにおける理学療法士の役割を理解する。 ３．理学療法士を目指すことへの覚悟を決め、学修への動機づけを高める。
対面授業の進め方	講義形式に加え、途中で提示された課題を個人で、またはグループでディスカッションしながら考えてまとめる作業も行いながら進めていく。
遠隔授業の進め方	Microsoft office 365 の Teams を使用し、双方向の授業を行う。授業のオンデマンド配信と課題配信を組み合わせて行う場合もある。Teams での会議に「顔出し」で参加。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30 分以上
1. オリエンテーション・理学療法とは（テキスト p1-24）	予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り　確認してみよう
2. 理学療法士に求められるもの（テキスト p25-50）	予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り　確認してみよう
3. 理学療法教育・研究（テキスト p51-72） グループワーク	予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り　確認してみよう
4. 理学療法士の活動領域（テキスト p73-96）	予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り　確認してみよう
5. 理学療法の安全管理（テキスト p97-116） グループワーク	予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り　確認してみよう
6. 臨床実習（テキスト p117-130）	予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り　確認してみよう
7. 検査・測定（テキスト p131-144） グループワーク	予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り　確認してみよう
8. ＡＤＬ（テキスト p145-158）	予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り　確認してみよう
9. 評価（ICIDH・ICF）（テキスト p159-172） グループワーク	予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り　確認してみよう
10. 運動療法（テキスト p173-186）	予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り　確認してみよう
11. 物理療法（テキスト p187-198） グループワーク	予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り　確認してみよう
12. 運動器障害系理学療法（テキスト p219-238）	予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り　確認してみよう

13. 神経障害系理学療法（テキスト p239-262） グループワーク	予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り　確認してみよう
14. 内部障害系理学療法　（テキスト P263-284）	予習：授業範囲を読む 復習：講義内容の振り返り　確認してみよう
定 期 試 験　（期末試験）	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト	☑レポート　40%	☑定期試験（期末）　60%	□その他
	基準等		レポートの提出及び内容を評価する。		

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	上杉　雅之　監修	PT 入門　イラストでわかる理学療法概論	医歯薬出版株式会社	2020
参考図書	高橋　哲也等 編著	理学療法概論	医歯薬出版株式会社	2024

履修要件等	本科目で理学療法を概観し、理学療法及び理学療法士像を明確にすることが、これから学修していく科目の意義を理解し、学修への動機づけとなることを念頭に置いて取り組んでもらいたい。		
オープンな教育リソース			
研究室	1 号館 1 階 理学療法学専攻長室	オフィスアワー	毎週月曜日 12:00～13:00

科目№	SBP02-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	基礎運動学	担当教員 E-Mail	岡　健司・佐伯　純弥		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学	必　修	1　単位	後　期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として臨床経験のある教員がその経験を活かし、ヒトの身体運動について解説を行う
授業内容の要約	人間の身体運動のしくみを理解する運動学は、基礎理学療法学における柱の一つである。当科目では姿勢・動作をもたらす関節運動に焦点を絞り、その構造と機能について学ぶ。
学修目標 到達目標	関節運動を成立させる骨・関節構造、筋・腱・靭帯などの軟部組織、およびそれらの間の力学的相互作用について説明できるようにする。
対面授業の進め方	講義形式で進める。
遠隔授業の進め方	Teams でのオンタイム授業または Stream での授業動画配信で、講義を行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30 分以上
1. 骨運動と関節包内運動（小テスト：関節の構造）	予習・復習：『筋骨格系のキネシオロジー』1–2 章
2. 上肢の運動学(1)肩関節（小テスト：関節の構造、肩の筋）	予習・復習：『筋骨格系のキネシオロジー』5 章
3. 上肢の運動学(2)肘・前腕・手関節（小テスト：関節の構造、肩・肘・前腕・手の筋）	予習・復習：『筋骨格系のキネシオロジー』6–8 章
4. 体幹の運動学（小テスト：関節の構造、肩・肘・前腕・手・体幹の筋）	予習・復習：『筋骨格系のキネシオロジー』9–10 章
5. 下肢の運動学(1)　股関節（小テスト：関節の構造、肩・肘・前腕・手・体幹・股関節の筋）	予習・復習：『筋骨格系のキネシオロジー』12 章
6. 下肢の運動学(2)　膝・足関節（小テスト：関節の構造、肩・肘・前腕・手・体幹・股・膝・足関節・足部の筋）	予習・復習：『筋骨格系のキネシオロジー』13–14 章
7. まとめ	これまでの予習・復習
定 期 試 験	
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	講義の総括

成績評価方法	項目	■課題・小テスト　30%	□レポート　%	■ 定期試験　70 %	□その他　%
	基準等	授業内の小テスト		授業内容の理解度を筆記試験（記述式）で評価する	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	D A. Neumann	『筋骨格系のキネシオロジー　原著第 3 版』	医歯薬出版	2018
参考図書	中村隆一 他	『基礎運動学　第 6 版補訂』	医歯薬出版	2003
	ヒントレ研究所	PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング 基礎医学編　改訂第 2 版	南江堂	2018

履修要件等	「運動学」を履修済みであることが望ましい。
オープンな教育リソース	

研究室	岡：1 号館 4 階 第 2 研究室 佐伯：1 号館 5 階 第 3 共同研究室	オフィスアワー	岡：毎週火曜日　12：10～13：00 佐伯：毎週月曜日　12：10～13：00

科目№	SBP03-1R	授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	基礎運動学実習	担当教員 E-Mail	岡　健司・佐伯　純弥		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	基礎理学療法学	必　修	1　単位	後　期 (30h)

教員の実務経験と授業内容の関連	理学療法士として臨床経験をもつ教員が、障害構造を知るうえでの基礎となる身体運動について講義と実習を通して解説する。
授業内容の要約	人間の身体運動のしくみを理解する運動学は、基礎理学療法学における柱の一つである。当科目では、身体運動に関する講義、および自身や他者の身体を通して知識を定着させる実習を行う。また、身体運動を捕捉する諸装置を用いた計測・解析について学ぶ。
学修目標 到達目標	1. 基本的な身体運動を成立させる解剖学的構造と力学的背景を理解する。 2. 身体運動の計測技術について知る。
対面授業の進め方	授業は講義および実習（小グループでの体験学習とディスカッション）で構成される。
遠隔授業の進め方	Teams オンライン形式で行う。講義はスライド等にて示し、実習は動画等を活用する。

授業計画	授業時間外に必要な学修	60 分以上
1. 関節運動（『ヒントレ』p7-19, 51;『キネシオロジー』第 2 章） （小テスト：関節の構造）	• 予習・復習：関節構造（『ヒントレ』p7-19, 51）	
2. 肩の構造と機能（『ヒントレ』p67-70;『キネシオロジー』第 5 章） （小テスト：関節の構造、肩の筋）	• 予習：上肢の解剖学（『ヒントレ』冒頭：筋の記憶トレーニング, p36-37） • 予習・復習：肩関節の運動学	
3. 肘と前腕の構造と機能（『ヒントレ』p75-76;『キネシオロジー』第 6 章） （小テスト：関節の構造、肩・肘・前腕の筋）	• 予習：肘・前腕の解剖学（『ヒントレ』冒頭：筋の記憶トレーニング, p36-37） • 予習・復習：肘・前腕の運動学	
4. 手と手指の構造と機能（『ヒントレ』p79-84;『キネシオロジー』第 7-8 章） （小テスト：関節の構造、肩・肘・前腕・手の筋）	• 予習：手・手指の解剖学（『ヒントレ』冒頭：筋の記憶トレーニング, p37） • 予習・復習：手・手指の運動学	
5. 脊柱・体幹の構造と機能（『ヒントレ』p113-118;『キネシオロジー』第 9 章） （小テスト：関節の構造、肩・肘・前腕・手・体幹の筋）	• 予習：体幹の解剖学（『ヒントレ』冒頭：筋の記憶トレーニング, p36） • 予習・復習：脊柱と体幹の運動学	
6. 骨盤・股関節の構造と機能（『ヒントレ』p91-94;『キネシオロジー』第 12 章） （小テスト：関節の構造、肩・肘・前腕・手・体幹・股関節の筋）	• 予習：骨盤・股関節の解剖学（『ヒントレ』冒頭：筋の記憶トレーニング, p38-39） • 予習・復習：股関節の運動学	
7. 膝関節の構造と機能（『ヒントレ』p98-101;『キネシオロジー』第 13 章） （小テスト：関節の構造、肩・肘・前腕・手・体幹・股・膝関節の筋）	• 予習：膝関節の解剖学（『ヒントレ』冒頭：筋の記憶トレーニング, p39） • 予習・復習：膝関節の運動学	
8. 足関節と足部の構造と機能（『ヒントレ』p105-109;『キネシオロジー』第 14 章） （小テスト：関節の構造、肩・肘・前腕・手・体幹・股・膝・足関節・足部の筋）	• 予習：足関節・足部の解剖学（『ヒントレ』冒頭：筋の記憶トレーニング, p39） • 予習・復習：足関節の運動学	
9. 運動学習（『ヒントレ』p193-198） （小テスト：運動学習、上肢の構造と機能）	• 予習・復習：運動学習	

10. 筋の活動・機能 (1)：筋エコー（超音波診断装置）（『ヒントレ』p22-26, 31-33, 44-47, 132-134;『キネシオロジー』第 3 章） （小テスト：運動学習、体幹の構造と機能）	● 予習・復習：筋の構造と機能
11. 筋の活動・機能 (2)：筋電図（EMG）（『ヒントレ』p22-26;『キネシオロジー』第 3 章） （小テスト：運動学習、下肢の構造と機能）	● 予習・復習：筋の構造と機能
12. 姿勢とバランス：重心動揺計（平衡機能計）（『ヒントレ』p22-26;『キネシオロジー』第 3 章） （小テスト：運動学習、上肢の構造と機能）	予習・復習：姿勢（『ヒントレ』p138-139）
13. 歩行 (1) 特殊な機器による計測・解析（『ヒントレ』p143-146, 150-152;『キネシオロジー』第 4 章, 第 15 章） （小テスト：運動学習、体幹の構造と機能）	予習・復習：歩行（『キネシオロジー』第 15 章 p714-752）
14. 歩行 (2) 基本的なツールによる計測（『ヒントレ』p143-146, 150-152;『キネシオロジー』第 15 章） （小テスト：運動学習、下肢の構造と機能）	予習・復習：歩行（『キネシオロジー』第 15 章 p714-752）
15. 総括及びフィードバック	総復習

成績評価方法	項目	■ 課題・小テスト　100%			
	基準等	授業内の小テスト、および実習課題で評価する			

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	ヒントレ研究所	PT・OT 基礎固めヒント式トレーニング　基礎医学編　改訂第 2 版	南江堂	2018
	D A. Neumann	『筋骨格系のキネシオロジー　原著第 3 版』	医歯薬出版	2018
参考図書				
履修要件等	「運動学」を履修済みであることが望ましい。			
オープンな教育リソース				

研究室	岡：1 号館 4 階　第 2 研究室 佐伯：1 号館 5 階　第 3 共同研究室	オフィスアワー	岡：毎週火曜日　12：10〜13：00 佐伯：毎週月曜日　12：10〜13：00

科目№	SPE01-1R	授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	理学療法計測法	担当教員 E-Mail	肥田　光正・今井　亮太		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	理学療法評価学	必　修	1　単位	後　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	病院での臨床経験のある教員（理学療法士）が、その経験を生かして、理学療法に必須の計測実技に関する基本的な知識と手法、理学療法評価についての考え方について講義する。
授業内容の要約	理学療法評価の一手段である検査・測定のうち、本講では、問診、バイタルサインや身体計測、関節可動域測定について、その意義・目的・方法・手順・結果の解釈・注意事項などを学習する。さらに2 年次以降に開講される理学療法評価学などの実習に備え、基本的な身体触察法についても教授する。
学修目標 到達目標	1.　使用器具の取り扱いに注意し、計測（測定）することができる。 2.　形態計測や関節可動域測定法の方法・手順・注意事項を理解し、健常者に対して正確に測定を実施できる。
対面授業の進め方	講義と実技練習を行う。実技練習は複数名のグループワークの形式で実施する。また、授業の復習のため、毎回の授業後に課題を課すか，あるいは授業開始前に小テストを実施する。学修した実技をプレゼンテーションする時間も適宜設ける。 授業では骨指標を触察する。骨の名称と部位を復習しておくことが望ましい。
遠隔授業の進め方	遠隔授業を行う場合は、office365 teams、stream を用いて講義を実施する。実技の習得には学生自身の学修が重要であるため、学生にも練習風景を動画で撮影してもらい、適宜教員が指導を行う。出席は、講義時間中に取り組む課題の提出の有無により確認する。質疑には、office365 teams 内やメール、電話などで対応する。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30 分以上
1.　計測法総論、医療面接	医療面接技法についてのまとめ
2.　形態計測(1)　形態測定総論。姿勢の観察、身長・体重・BMI	姿勢の観察の復習
3.　形態計測(2)　四肢長	四肢長の測定方法の復習
4.　形態測定(3)　四肢周径	四肢周径の測定方法の復習
5.　バイタルサイン（血圧・脈拍）	血圧、脈拍測定の復習
6.　関節可動域測定総論	関節可動域測定についてのまとめ
7.　関節可動域測定(1)　股関節	股関節の可動域測定の復習
8.　関節可動域測定(2)　膝関節、足関節	膝関節・足関節の可動域測定の復習
9.　関節可動域測定(3)　足部、肩甲帯	足部・肩甲帯の可動域測定の復習
10.　関節可動域測定(4)　肩関節	肩関節の可動域測定の復習
11.　関節可動域測定(5)　肘関節、前腕	肘関節・前腕の可動域測定の復習
12.　関節可動域測定(6)　手関節	手関節の可動域測定の復習
13.　関節可動域測定(7)　頸部、体幹	頸部・体幹の可動域測定の復習
14.　形態測定、関節可動域測定の総合復習	
定 期 試 験　（期 末 レ ポ ー ト）	
15.　総括及びフィードバック（期末レポートの講評・解説）	

成績評価方法	項目	■課題・小テスト　65%	■レポート　35%	□定期試験　%	■その他　5%
	基準等	毎回の授業開始時は、小テストを実施する。また実技試験を実施する。	演習内容に関するレポート課題		授業態度やグループワーク参加の積極性を吟味する。

<table>
<tr><td rowspan="2">教科書</td><td>著者</td><td>タイトル</td><td>出版社</td><td>発行年</td></tr>
<tr><td>潮見泰藏　他</td><td>「PT・OT ビジュアルテキスト　リハビリテーション基礎評価学　第 2 版」</td><td>羊土社</td><td>2019</td></tr>
<tr><td>参考図書</td><td>内山靖
岩井信彦</td><td>「標準理学療法学　専門分野　理学療法評価学　第 4 版」</td><td>医学書院</td><td>2023</td></tr>
<tr><td>履修要件等</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td>オープンな
教育リソース</td><td colspan="4">【活用方法】検査・測定技術の習得、実習前の復習
【URL】https://www.youtube.com/watch?v=7hJ6YNFepv4</td></tr>
<tr><td>研究室</td><td colspan="2">肥田：研究科棟 4 階　第 141 研究室
今井：研究科棟 4 階　第 145 研究室</td><td>オフィスアワー</td><td colspan="2">肥田：毎週月曜日　13：00〜14：30
今井：毎週月曜日　12：10〜13：00</td></tr>
</table>

科目№	SPT04-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	運動療法学総論	担当教員 E-Mail	峰久　京子		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	理学療法治療学	必　修	1　単位	後　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	病院で理学療法士として23年の臨床経験がある教員がその経験を活かして、運動療法の基本的な知識、理論、方法について指導する。
授業内容の要約	当該科目は教育課程における専門科目であり，理学療法実践の中心となる運動療法の基本的な知識、理論、方法を学習し、「運動療法学実習」や障害別理学療法の基礎を構築する。
学修目標 到達目標	1. 各運動療法の対象となる障害を想起できる 2. 各種運動療法の概論について説明できる 3. 各運動療法の理論・方法について説明できる
対面授業の進め方	・教科書を中心とした講義形式で行い、理解の程度を確認するために中間試験を実施する。 ・本講義の受講に先立ち、解剖、運動、生理学の理解を深めておくことが望ましい ・事前に教科書を読み、疑問を持って授業に取り組むこと。アクティブラーニングを推進するためワークブックとして使用できるレジュメを配布する。受講しながら課題を完成させ、さらに復習としてノート整理を行ってください。作成されたノートは評価対象であり、フィードバックします。
遠隔授業の進め方	Microsoftoffice365のteamsを使用し、双方向通信の授業を行う。 遠隔授業時の出席確認は、teams に紐づけられた Class Notebook に授業のまとめを作成することと、確認テストの提出をもって行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修　60分以上
1. 総論．運動療法の定義と分類、適応と禁忌①（教科書ｐ2～ｐ15）	予習：教科書p1～15を読む 復習：運動・運動療法の定義と分類、適応と禁忌、手順についてまとめる。
2. 総論．運動療法の定義と分類、適応と禁忌②（教科書ｐ2～ｐ15）	予習：教科書p1～15を読む 復習：運動・運動療法の定義と分類、適応と禁忌、手順についてまとめる。
3. 運動における筋の機能（教科書ｐ18～37）	予習：教科書p18～37を読む 復習：筋の機能、収縮様式、筋の役割、筋力増強についてまとめる。
4. 筋力・筋持久力低下に対する運動療法（教科書ｐ38～48）	予習：教科書p38～48を読む 復習：筋力・筋持久力低下に対する運動療法についてまとめる。
5. 運動における関節可動性（教科書ｐ52～65）	予習：教科書p52～64を読む 復習：関節の構造と可動性、副運動とストレッチング・拘縮の運動療法についてまとめる。
6. 関節可動性障害に対する運動療法（教科書ｐ66～77）	予習：教科書p66～77を読む 復習：評価と臨床推論、可動性障害の運動療法・ROM運動についてまとめる。
7. 1～6までの確認試験（中間試験） 姿勢・動作におけるバランス機能（教科書ｐ80～92）	予習：教科書p80～92を読む 復習：姿勢・動作とバランス、バランスの機能の低下と改善についてまとめる。
8. 中間試験のフィードバック 姿勢・動作におけるバランス機能（教科書ｐ80～92）	予習：教科書p80～92を読む 復習：姿勢・動作とバランス、バランスの機能の低下と改善についてまとめる。

9.　バランス機能に対する運動療法（教科書ｐ94～113）	予習：教科書 p94～113 を読む 復習：バランス機能と姿勢制御、バランス機能障害の評価と運動療法についてまとめる。
10.　協調性機能と運動療法（教科書ｐ216～ｐ240）	予習：教科書 p216～240 を読む 復習：フィードバックとフィードフォワード制御、協調性障害の運動療法についてまとめる。
11.　加齢による運動機能変化と運動療法（教科書ｐ350～ｐ373）	予習：教科書 p350～373 を読む 復習：加齢に伴う心身機能の変化とその評価、運動療法についてまとめる。
12.　基本動作と運動療法（教科書ｐ376～ｐ421）	予習：教科書 p376～421 を読む 復習：基本動作能力・歩行能力再獲得のための評価と運動療法についてまとめる。
13.　運動学習と運動療法（教科書ｐ424～ｐ437）	予習：教科書 p424～437 を読む 復習：運動学習の定義と代表的理論、運動学習を用いた運動療法についてまとめる。
14.　全身調整訓練(コンディショニング)	予習：廃用症候群について調べる 復習：廃用症候群、コンディショニングをはかる手段についてまとめる。
定 期 試 験	
15.　総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法					
	項目	☑課題・小テスト 20 %	□レポート　　%	☑定期試験　70 %	☑その他　10 %
	基準等	授業内に中間試験を実施し、授業内容についての理解度を評価する		定期試験（全範囲）で講義全般の理解度を評価する	学習をすすめるノート（授業内で配布するレジュメを含んでよい）を評価する

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	対馬栄輝	「Crosslink 理学療法テキスト　運動療法学」	メジカルビュー社	2020
参考図書	特に指定しない			
履修要件等	「理学療法概論」が履修済みであることが望ましい。			
オープンな教育リソース				
研究室	1 号館 5 階 第 7 研究室	オフィスアワー	毎週木曜日 12：10～12：50	

科目№	SCP01-1R	授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	臨床ゼミⅠ	担当教員 E-Mail	肥田光正　中村美砂 佐伯純弥		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	臨床実習	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場において豊富な実務経験のある専任教員が指導し、将来医療職に就くための心構えを伝える。また、大学人としてマナー指導を行う。
授業内容の要約	本科目はリハビリテーション・理学療法の現場に臨む準備のための科目である。「自己表出し、人間関係を作る力」、「分類し、系統立てる力」を身につけ、後期の臨床見学実習に備えるため関連施設見学、グループ調査などの体験した内容を踏まえて考察し、発表する。
学修目標 到達目標	1.　理学療法士の職域、理学療法士と他職種との連携のあり方を説明することができる 2.　社会人及び理学療法士を志す学生としての基本的な振る舞いができる 3.　コミュニケーション能力の向上を目指す
対面授業の進め方	本科目の内容を臨床実習に活かせるようにアクティブラーニングを中心とした学習を行い、グループワークに参画することで他者との意見交換や交流の重要性を学び、コミュニケーション能力の向上を目指す。
遠隔授業の進め方	office365 Teams を用いた講義、および課題学習を行う

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 授業のスケジュール、学年暦、履修に関する説明		
2. 出欠ルール、課題に関する説明	自己紹介ファイルの作成	
3. 発表：自己紹介を通したコミュニケーションに関する演習	同級生の氏名を覚える	
4. 集団活動（体育祭）の準備等を通じた学生間連携		
5. 演習：集団活動（体育祭）を通じた学生間連携①		
6. 演習：集団活動（体育祭）を通じた学生間連携②		
7. 演習：解剖学・生理学・運動学の学習方法・小テスト①	演習の復習	
8. 演習：解剖学・生理学・運動学の学習方法・小テスト②	演習の復習	
9. 演習：解剖学・生理学・運動学の学習方法・小テスト③	演習の復習	
10. 演習：解剖学・生理学・運動学の学習方法・小テスト④	演習の復習	
11. 演習：バイタルサインの測定	演習の復習	
12. 演習：筋力測定	演習の復習	
13. 演習：関節可動域測定	演習の復習	
14. 試験に関するオリエンテーション、学習方法についての説明		
15. 総括及びフィードバック		

成績評価方法	項目	■課題・小テスト　50%	□レポート	□定期試験　　%	■その他　　50%
	基準等	課題・各演習の達成度をあわせて50%			授業態度・発表内容をあわせて 50%

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	特に指定しない			
参考図書	大阪河﨑リハビリテーション大学 学生便覧			

履修要件等	この科目の単位を修得しないと、臨床見学実習の履修は認められない。		
オープンな 教育リソース			
研究室	各担当教員 研究室	オフィスアワー	各担当教員 オフィスアワー

科目№	SCP03-1R	授業形態	演習	開講年次	１年次
授業科目名	臨床実習指導Ⅰ（ＰＴ）	担当教員 E-Mail	肥田光正　中村美砂　佐伯純弥		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	臨床実習	必　修	１　単位	後　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場において豊富な実務経験のある専任教員が指導し、医療職として臨床見学実習の心構えを伝える。
授業内容の要約	専門教育を受ける前の段階で、保健、医療、福祉分野における実際の理学療法がどのように展開されているのか、病院や施設において見学・体験し、理学療法士の役割の理解を深めるのが臨床見学実習である。実習に参加するにあたり、注意事項を遵守し、臨地実習指導者のもとで患者や各種専門職の方々とのコミュニケーションをはかり、対象者との意志疎通の仕方、基本的態度を身につける視点を学ぶ。
学修目標 到達目標	1. 臨床見学実習の全体像を把握し、意義・目的を理解する 2. 臨床見学実習に参加するための心構え・態度を身に付ける 3. 臨床見学実習に参加するために必要な基礎知識（解剖学・生理学・運動学）を補う。
授業形態 授業の進め方	講義・演習を主とする。演習はグループワーク形式のアクティブラーニングとし、適宜プレゼンテーションを行う。「知識の復習」では、毎回テストを行い、翌週に問題の解説レポートの提出が必須である。本科目は、臨床見学実習に参加するための重要不可欠な科目であることを理解しておくこと。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1.　オリエンテーション	
2.　臨床実習に必要な知識の確認（骨・関節）①	骨・関節領域の復習・解説レポート作成
3.　臨床実習に必要な知識の確認（骨・関節）②	骨・関節領域、呼吸・循環領域の復習
4.　臨床実習に必要な知識の確認（呼吸・循環）①	呼吸・循環領域の復習・解説レポート作成
5.　臨床実習に必要な知識の確認（呼吸・循環）②	呼吸・循環領域、消化・代謝領域の復習
6.　臨床実習に必要な知識の確認（消化・代謝）	消化・代謝領域の復習・解説レポート作成
7.　臨床実習に必要な知識の確認（総合試験）	
8.　臨床見学実習の説明①（実習の目的・位置づけ、実習までのタイムスケジュール、実習中の基本的態度について）	
9.　臨床見学実習の説明②（非常事態時の対応、実習中の責務、個人情報保護、学生紹介書について）	学生紹介書の作成、学内担当教員への挨拶
10.　臨床見学実習の説明③（学生紹介書の確認）	実習施設調査レポート作成
11.　臨床見学実習の説明④（実習前報告書、デイリーノート、レジュメについて）	実習前報告についての担当教員からの指導
12.　臨床見学実習の説明⑤（ICF について）	ICF の復習
13.　臨床見学実習の説明⑥（実習前知識確認テスト、実習前電話挨拶について）	挨拶電話のタイミング等につき担当教員指導
14.　臨床見学実習の説明⑦（実習直前ガイダンス、礼状の書き方、身だしなみの確認）	実習の手引きの再読
15.　臨床見学実習報告会（実習後セミナー、実習報告会、実習ポートフォリオについて）	礼状作成、実習ポートフォリオ作成、レジュメ・施設情報ファイリング

<table>
<tr><td rowspan="2">成績評価方法</td><td>項目</td><td>□課題・小テスト 30%</td><td>□レポート　40　　%</td><td>□定期試験　　%</td><td>□その他　　30　%</td></tr>
<tr><td>基準等</td><td>実習に必要な解剖学・運動学などの復習課題の発表内容を吟味する</td><td>実習に必要な書類を含むレポートの提出状況や内容を吟味する</td><td></td><td>出席状況や授業態度を総合的に吟味する</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教科書</td><td colspan="2">著者</td><td>タイトル</td><td>出版社</td><td>発行年</td></tr>
<tr><td colspan="4">「臨床実習の手引き　第 5 版」
「臨床実習の手引き　理学療法学専攻 2023 年度版」</td></tr>
<tr><td>参考図書</td><td colspan="4">適宜配布</td></tr>
<tr><td>履修要件等</td><td colspan="4">「臨床ゼミⅠ」の単位取得が前提</td></tr>
<tr><td>オープンな
教育リソース</td><td colspan="4">【活用方法】臨床見学実習までの事前学習
【臨床実習の手引き】PDF データを HP にて掲載</td></tr>
<tr><td>研究室</td><td colspan="2">各担当教員 研究室</td><td>オフィスアワー</td><td colspan="2">各担当教員 オフィスアワー</td></tr>
</table>

科目№	SCP06-1R	授業形態	実習	開講年次	１年次
授業科目名	臨床見学実習（ＰＴ）	担当教員 E-Mail	肥田光正　中村美砂　佐伯純弥		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	理学療法学	臨床実習	必　修	1　単位	後　期（45h）

教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場において豊富な実務経験のある専任教員と実習指導者が実習指導にあたる。
授業内容の要約	臨床現場の見学を通して、病院・施設における理学療法の役割について理解する。対象者の生活機能を認識する。 対象者やスタッフに信頼される行動・態度を体験する。
学修目標 到達目標	1. リハビリテーションや理学療法の見識、社会における理学療法の必要性や役割・専門性について理解する。 2. 指導者の指導を受け、対象者の生活機能を、国際生活機能分類に準じてまとめる。まとめた内容を他者に説明できる。 3. 学内で学んだ一部の理学療法検査・測定等を通して、積極的に対象児・者との関わりを持てるようになる。
対面授業の進め方	1週間にわたり病院・施設で見学実習を行う実地体験学習とする。実習後セミナーでは、実習報告会として実習成果を発表し、グループディスカッションによるアクティブラーニングを行う。 他者との関わり合いを積極的に持ち、自ら学ぶ姿勢で実習に取り組むこと。
遠隔授業の進め方	学内代替実習になった場合は、実習担当教員が Teams のクラスノートブックを活用して、日々の課題の提出と添削をおこなう。また、オンラインにて双方向の実習指導を個別および少人数にておこなう。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30 分程度
1週にわたり病院・施設で見学実習を行う。実習前には実習に必要な態度・知識・技術を習得しているかどうかについて確認する。実習後にセミナーにて課題発表会を行う。	実習の手引きをよく確認する。 毎日の実習体験をデイリーノートにまとめる。 実習報告会用のレジメを A3 用紙 1 枚にまとめる。不十分な基礎知識を自己学習する。	

成績評価方法	項目	☑課題・小テスト　30%	□レポート　　%	□定期試験　　%	☑その他　　70%
	基準等	実習前に学修した知識を確認するためのテストを行う.			実習成績と実習後セミナー、セミナー後の課題達成度を総合して判定する。

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	「臨床実習の手引き　第 5 版」			
	「臨床実習の手引き　理学療法学専攻 2023 年度版」			
参考図書	特に指定しない			

履修要件等	実習要件 1）を満たしていること
オープンな教育リソース	
研究室	各担当教員　研究室　　オフィスアワー　各担当教員　オフィスアワー

科目№	SBO01-1R	授業形態	講義	開講年次	１年次
授業科目名	作業療法学概論	担当教員 E-Mail	岸村　厚志／中越　雄也		

基本項目	専　　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	回復期（回復期リハビリテーション病棟）、生活期（療養病棟・訪問リハビリテーション・デイケア･デイサービス）の臨床現場の実務経験を基に、作業療法とは、どのような対象者に何を、何のために、どのような手段で行い、何を成果とする介入を行うのかを教授する。介護認定審査会委員・障がい支援区分認定審査会委員・大阪府作業療法士会理事・事務局長などの実務経験を基に作業療法士という専門職の社会的役割とは何か、そして他の医療職や市・府の職員又は一般企業や府民との関わり方や態度についての講義を行う。
授業内容の要約	作業療法と作業療法士を取り巻く状況と歴史や法制度を概括しつつ、作業療法の基本的概念とその対象、作業療法の流れやアプローチの概要について学修する。
学修目標 到達目標	1. 早期より作業療法への理解に強い動機付けをもち学修習慣を身につける 2. 作業療法とは何か説明できる 3. 作業療法士の社会的役割を説明できる 4. 作業療法の関連法規の大枠と定義を説明できる 5. 作業療法の対象と障害を説明できる 6. 作業療法の流れとアプローチを説明できる 7. 各障害領域別作業療法を説明できる 8. 専門職とは何かが説明できる
対面授業の進め方	初年次の早期より積極的に作業療法の理解に取り組んでいけるように、各学修課題の事前学習・当日の授業への積極的な参加、課題レポート作成等に力を尽くしてもらいたい。アウトプットも時間として、ディスカッションの機会も多く取り入れる。日頃よりクラス仲間との交流を図り相互信頼関係を深めていただきたい。授業全般を通して学生の能動的な授業への参加と取り組みを期待します。
遠隔授業の進め方	teams を使用し、双方向通信の授業を行う。課題配信の有無については、各担当教員からの連絡があります。出席確認の方法は授業開始時行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30 分以上
1. オリエンテーション・目標の共有・勉強の仕方（講義）	予習：日本作業療法士協会ホームページ 復習：講義内容の振り返り
2. 作業療法を学ぶ前に（教科書：教と略す pp3～10）（講義）	予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り
3.「作業」とは（教 pp11～26）	予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り
4.「作業療法」とは（教 pp29～42）	予習：興味があるところにマークしておく 復習：講義内容に振り返り
5. 作業療法の歴史（教 pp45～55）	予習：興味があるところにマークしておく 復習：ディスカッションをまとめる。
6. 世界の作業療法（教 pp57～66）	予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り
7. 作業療法の対象と領域（教 pp71～80）	予習：知らない言葉を調べておく 復習：作業療法の過程の流れを理解する。

8. 作業療法の実践過程（教 pp81～101）	予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り
9. 作業療法の理論と技術①（教 pp103～115）【中越】	予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り
10. 作業療法の理論と技術②（教 pp103～115）【中越】	予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り
11. 作業療法の研究、エビデンス（教 pp119～129）	予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り
12. 作業療法の教育、関連法規と職能団体（教 pp133～166）	予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り
13. 身体障害領域の作業療法、老年期障害領域の作業療法（教 pp171～199、241～257）	予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り
14. 精神障害領域の作業療法、発達系障害領域の作業療法（教 pp203～222、225～240）	予習：知らない言葉を調べておく 復習：講義内容の振り返り
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	講義全体から理解不十分な項目や課題、内容を検証し、ノートに整理しまとめておくこと

成績評価方法					
	項目	□課題・小テスト 39%	□レポート 0%	■定期試験 50 %	□その他 0%
	基準等	講義の翌週（第2～14回）に小テスト実施、各10点の合計130点満点の3割を成績に反映		講義の翌週に実施した小テストと14回目の講義の小テストに該当する内容から出題	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	東登志夫 監修・ 編集	シンプル作業療法学シリーズ 「作業療法学概論テキスト」	南江堂	2023
参考図書	能登真一 編集	「標準作業療法学 専門分野 作業療法学概論 第４版」	医学書院	2021
	長崎重信 監修 里村恵子 編集	「作業療法学 ゴールド・マスターテキスト 作業療法学概論 第３版」	メジカルビュー社	2021
	杉原素子	「作業療法学全書 改訂第３版 第１巻 作業療法概論」	協同医書	2010

履修要件等	自身の作業のルーティンとバランスを考え、作業療法士をめざす学生として最適な１日・１週間・１ヶ月･1 年そして４年間の過ごし方を身につけましょう！ 人生 100 年時代という長い人生を「作業療法士」という職業を通して、有意義なものにしていきましょう！
オープンな教育リソース	

研究室	岸村：１号館１階 作業療法学専攻長室 中越：１号館５階 第２共同研究室	オフィスアワー	岸村：毎週月曜日 16：20～17：00 中越：毎週火曜日 12：10～13：00

科目№	SBO02-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	基礎運動学	担当教員 E-Mail	白岩　圭悟		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学	必　修	1　単位	後　期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	身体障害分野の作業療法に必要な身体運動の基礎を学ぶ。
学修目標 到達目標	1. 身体運動の基礎を深めることができることを目指す 2. 作業療法に必要な身体運動機能の分析力を身につけることを目指す
対面授業の進め方	身体運動を捉えて作業療法の実践に関する根拠となる、身体構造を学んでいく。 日常生活から身体の運動の視点をもっておくこと。また、各関節について、整理／理解力を促進するために学生同士でグループワークを取り入れる。
遠隔授業の進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信の授業を行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 運動学の基礎	復習：運動の種類や軸、関節の種類を理解する	
2. バイオメカニクス	復習：バイオメカニクスについて理解する	
3. 腕神経叢	復習：腕神経叢を理解する	
4. 上肢帯の運動	復習：上肢帯の筋と関節の相互作用を理解する	
5. 肩関節の運動	復習：肩関節の筋と関節の相互作用を理解する	
6. 肘関節と前腕の運動	復習：肘関節の筋と関節の相互作用を理解する	
7. 手関節と手の運動	復習：手関節と手の関節について理解する	
定 期 試 験　（期 末 レ ポ ー ト）		
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法					
	項目	■課題・小テスト　10%	■レポート　20%	■定期試験　60%	■その他　10%
	基準等	各授業に関する課題があり、その取り組む姿勢や提出物の内容を評価する。	各授業に関するレポートがあり、提出物の内容を評価する。	定期試験は筆記試験で実施する。	授業への参加度、定期試験の受験資格を失わない出席が必要である。

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	D A. Neumann	「筋骨格系のキネシオロジー　原著第3版」	医歯薬出版	2018
参考図書	中村隆一　他	「基礎運動学　第6版補訂」	医歯薬出版	2012

履修要件等			
オープンな教育リソース			
研究室	1号館5階　第13研究室	オフィスアワー	毎週火曜日 12:10～13:00

科目№	SBO05-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	基礎作業学	担当教員 E-Mail	武井　麻喜		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学	必　修	1　単位	前　期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	病院・施設での臨床経験が20年以上ある教員が、その経験を活かして、作業についての基本的な考え方を講義する。
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」を達成するための科目である。また、教育課程における専門科目であり、作業療法の基礎になる作業についての知識を身につける。作業療法評価学、治療学や臨床実習に繋がる基礎となる科目である。作業の持つ意味、作業が人に与える影響（身体的・心理的）などについて考えていく。
学修目標 到達目標	1. 作業の定義が説明できる 2. 作業の分類ができる 3. 人と作業の関係を理解し説明ができる 4. 作業分析の概要を理解し説明ができる
対面授業の進め方	講義の後、テーマに基づいてグループ討論、発表を行う。 積極的なグループ討論をするように。
遠隔授業の進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し双方向通信の授業を行う。遠隔授業の出席確認は授業終盤に配信する課題の提出をもって行うこととする。遠隔授業を行う場合は予め授業内で通知する。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 基礎作業学とは、作業とは	復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること	
2. 作業療法における作業の分類	復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること	
3. 作業療法における作業の特徴	復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること	
4. 作業と生活（作業バランス）	復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること	
5. 作業と生活（ひとの生活様式）	復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること	
6. 作業と道具	復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること	
7. 作業分析（想定課題）	復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること	
定 期 試 験		
8. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	■課題・小テスト　40%	□レポート　　%	■定期試験　　60%	□その他　　%
	基準等	毎回グループ討論後のまとめを課題として評価する。		定期試験を実施する。授業内容全般についての理解度を評価する。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	特に指定しない			
参考図書	濱口豊太　編集	標準作業療法学　専門分野　基礎作業学　第3版	医学書院	2017
	山根寛	ひとと作業・作業活動　新版	三輪書店	2015

履修要件等	「作業療法学概論」を履修していることが望ましい。		
オープンな 教育リソース			
研究室	1 号館 5 階 第 18 研究室	オフィスアワー	毎週月曜日　12:10～13:00

科目№	SBO06-1R	授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	基礎作業分析学実習	担当教員 E-Mail	嶋野　広一・水野　貴子		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	基礎作業療法学	必　修	1　単位	後　期（45h）

教員の実務経験と授業内容の関連	臨床経験20年以上のある教員がその経験を活かして基礎作業分析の知識と技法を講義し、対象者への対応について指導する。
授業内容の要約	作業療法で用いる代表的な作業種目について、その工程や手段を学び、具体的に説明できる。実習の中で、作業に必要とされる道具・材料について学び、作業の持つ特性や人の心に与える影響を考察する。
学修目標 到達目標	1. 具体的に作業活動（手工芸）の工程・手順を実習することで、種目ごとの特徴を説明できる。 2. 道具・材料・工程について理解し、分析することができる。
対面授業の進め方	実習形式なので汚れてもよい服装にて参加し、授業の邪魔になる行為があれば出席を認めない。基礎作業学を十分に理解しておくこと。
遠隔授業の進め方	

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 陶芸：基本的工程・土練り・たたら作り	復習：陶芸でのレポート作成	
2. 陶芸：たたら作り・玉作り	復習：陶芸でのレポート作成	
3. 陶芸：施釉	復習：陶芸でのレポート作成	
4. 陶芸：施釉	復習：陶芸でのレポート作成	
5. タイルモザイク：コースター1	復習：タイルモザイクについてのレポート作成	
6. タイルモザイク：コースター2	復習：タイルモザイクについてのレポート作成	
7. 木工：基本工程・設計･採寸・切断	復習：木工についてのレポート作成	
8. 木工：組み立て･仕上げ	復習：木工についてのレポート作成	
9. ボンボンマスコット：ストラップ人形1	復習：ボンボンマスコットについてのレポート作成	
10. ボンボンマスコット：ストラップ人形2	復習：ボンボンマスコットについてのレポート作成	
11. スプールウェビング：ミニマフラー1	復習：スプールウェビングについてのレポート作成	
12. スプールウェビング：ミニマフラー2	復習：スプールウェビングについてのレポート作成	
13. 裁縫：お手玉1	復習：裁縫についてのレポート作成	
14. 裁縫：お手玉2	復習：裁縫についてのレポート作成	
15. マクラメ：ミサンガ1	復習：マクラメについてのレポート作成	
16. マクラメ：ミサンガ2	復習：マクラメ折り紙についてのレポート作成	
17. ビーズ細工：コースター1	復習：ビーズ細工についてのレポート作成	
18. ビーズ細工：コースター2	復習：ビーズ細工についてのレポート作成	
19. 張り子：置物	復習：張り子について復習する	
20. 折り紙：くす玉など	復習：折り紙について復習する	
21. 卓球：ルールの理解等	復習：卓球について復習する	
22. トランプ：ルールの理解等	復習：トランプについて復習する	
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）		
23. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　　%	■レポート　80　%	□定期試験　　%	■その他　　20　%
	基準等		種目ごとにレポートを課す。		完成した作品を評価する。

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	特になし			
参考図書	浅沼辰志	「作業療法学　ゴールド・マスター・テキスト　作業学　第３版」	メジカルビュー社	2021
履修要件等	基礎作業学を履修していることが望ましい。			
オープンな教育リソース				
研究室	嶋野：１号館２階 第24研究室 水野：１号館４階 第５研究室	オフィスアワー	嶋野：毎週火曜日　10：40～12：10 水野：毎週水曜日　12：10～12：50	

科目№	SOE01-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	作業療法評価学	担当教員 E-Mail	武井　麻喜・水野　貴子		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	作業療法評価学	必　修	1　単位	後　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	病院・施設での臨床経験が20年以上ある教員が、その経験を生かして、評価の考え方についての講義と、身体機能の代表的な検査・測定の知識と技法について指導する。
授業内容の要約	本学のディプロマポリシーである「基礎領域、専門基礎領域、専門領域の科目において、基本的学力を身につけた人」「リハビリテーション領域における総合的な知識および専門的な技能を充分身につけた人」を達成するための科目である。また、教育課程における専門科目であり、2年次のカリキュラム・ポリシーを達成するための根幹となる科目である。 人が作業する際に用いる身体機能を適切に評価することが作業療法のスタートとなる。講義では作業療法評価の基本的な考え方・枠組みを学習する。加えて健常人の生理機能の測定、形態学的測定、関節可動域測定を主に身体機能の基礎評価の技法についても学習する。
学修目標 到達目標	1. 身体機能系の評価の定義と流れや目的・意義を理解し説明ができる 2. 評価計画の立案や統合と解釈について理解し説明ができる 3. 代表的な作業療法の評価の目的・手段を述べることができる 4. 臨床見学実習で対象者と接する前段階において実習生としての知識・技術・態度を習得する
対面授業の進め方	前半は、パワーポイントを使用した講義、グループ討論を実施する。後半は学生同士がペアになって実技を実施し、各評価技法の授業終了時（11、13、15回目）には実技の確認テストを実施する。 実技は肩や肘が出せるようなシャツ、膝が出せるような下衣（ジーンズ・スカート不可）で参加のこと。各自配布された検査器具を必要に応じて持参すること。感染対策として、手指やベッド消毒などをすること。
遠隔授業の進め方	（前半授業）Microsoft office365 の Teams を使用し双方向通信の授業を行う。遠隔授業の出席確認は授業終盤に配信する課題の提出をもって行うこととする。遠隔授業を行う場合は予め授業内で通知する。（後半授業）対面のみとする。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. ガイダンス、評価とは（目的）【講義／武井】＜教科書 pp3～8＞	復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること
2. 作業療法と評価（評価項目・ICF）【講義／武井】＜教科書 pp9～10＞	復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること
3. 作業療法と評価（評価計画、評価の手順と手段）【講義／武井】＜教科書 pp15～17＞	復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること
4. 作業療法と評価（統合と解釈）【講義／武井】＜教科書 pp19＞	復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること
5. 作業療法と評価（課題の抽出、治療目標）【講義／武井】＜教科書 pp19～20＞	復習：グループ討論の内容を自分なりにまとめること
6. 記録・報告の意義と特徴【講義／武井】＜教科書 pp28～32＞	復習：配布資料を元に内容を自分なりにまとめること
7. 中間テスト（座学テスト）	
8. 関節可動域測定1（上肢）【実技／水野・武井】＜教科書 pp72～82、pp89＞	予習：教科書 pp72～82 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること
9. 関節可動域測定2（上肢・手指・下肢）【実技／水野・武井】＜教科書 pp83～84、pp90-92＞	予習：教科書 pp83～84 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること

10. 関節可動域測定 3（下肢・頸部）【実技／水野・武井】＜教科書 pp85～86、pp93～94＞	予習：教科書 pp85～86 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること
11. 関節可動域測定（頸部・体幹）【実技／水野・武井】＜教科書 pp87＞・確認テスト	予習：教科書 pp87 を予め読んでおくこと 復習：実技の復習をすること
12. 形態計測 1（上下肢長）・【実技／武井・水野】＜教科書 pp65～71＞	復習：配布資料を元に実技の復習をすること
13. 形態計測 2（上下肢周径）【実技／武井・水野】＜教科書 pp65～71＞・確認テスト	復習：配布資料を元に実技の復習をすること
14. 血圧脈拍測定【実技／水野・武井】＜教科書 pp56～58＞、期末テストについて	復習：配布資料を元に実技の復習をすること
定 期 試 験 （実技試験）	
15. 総括及びフィードバック（実技試験の解説）・血圧脈拍測定確認テスト	

成績評価方法					
	項目	■課題・小テスト 20%	□レポート　　%	■定期試験　　50　%	■その他　　30　%
	基準等	前半座学ではグループ討論後のまとめを課題として評価する。		後半実技実習分を定期試験として実技試験を実施する。	第 7 回目に中間テストを実施し、座学の内容についての理解度を評価する。 前半の座学、後半の実技実習を総合的に評価する。

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	能登真一　他	「標準作業療法学　専門分野 作業療法評価学 第 4 版」	医学書院	2024
参考図書	佐竹勝・石井文康 編	「作業療法学　ゴールド・マスター・テキスト 作業療法評価学　第 3 版」	メジカルビュー社	2022
	西守隆　編	「PT・OT 入門　イラストでわかる評価学」	医歯薬出版	2020
	伊藤俊一　監修	「PT・OT のための測定評価 DVD Series2 形態測定・感覚検査・反射検査　第 2 版」	三輪書店	2007
	内山靖　編	「図解　理学療法検査・測定ガイド第 3 版」	文光堂	2023

履修要件等	「作業療法学概論」「解剖学」「生理学」が履修済であることが望ましい。		
オープンな教育リソース			
研究室	武井：1 号館 5 階 第 18 研究室 水野：1 号館 4 階 第 5 研究室	オフィスアワー	武井：毎週月曜日　12:10～13:00 水野：毎週水曜日　12:10～12:50

科目№	SCP06-1R	授業形態	実習	開講年次	1年次
授業科目名	臨床見学実習（OT）	担当教員 E-Mail	上島　健・増澤　達彦		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	作業療法学	臨床実習	必 修	1 単位	後 期(45h)

教員の実務経験と授業内容の関連	臨床現場の実務経験を基に医療・保健・福祉機関で働く作業療法士の役割・分担、対象者・児へのリハビリテーションサービス(評価・介入・援助)、他の関連職種との連携と社会資源の活用、個人情報保護の配慮、などを診療チームの一員として自覚を促すように解説すると共に、臨床見学体験を通して学内での学習意欲への動機づけを指導する。
授業内容の要約	身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から1分野を見学する。臨床実習施設の概要、対象疾患、作業療法の実践内容を見聞、体験すると共に対象者(児)やスタッフへの対応を経験し、2年次への学修につなげる。
学修目標 到達目標	1. 保健・福祉・医療などの現場における作業療法士の役割・分担について理解することができる。 2. 作業療法士と他の関連職種についての役割・分担・専門内容を理解することができる。 3. 作業療法士が勤務する他の関連施設・病院についての役割・分担・専門内容を理解することができる。 4. 個人情報保護に配慮して対象児・者を多面的に理解することができる。 5. 臨床場面での体験を通して、学内での学習意欲(動機付け)を更に高めることができる。
対面授業の進め方	・ 臨床実習に準じたマナーや社会性が求められるため医療従事者として責任感のある行動・態度に配慮すること。 ・ 臨床実習にふさわしい服装で臨むこと。
遠隔授業の進め方	Microsoft office365 の teams を使用し、双方向通信にて学内代替実習を行う。課題配信の提示については、各担当教員からの連絡・指示があります。出席確認の方法は通信開始時に行うので、通信の不備、質疑応答等があった場合は、メール等で担当教員、代表教員に直ちに申し出てください。

授業計画	授業時間外に必要な学修	60分以上
身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野、高齢期障害分野から1分野の施設で1週間の臨床見学実習を実施する	臨床見学実習施設の概要・方針をホームページ等で調べ、医療従事者の役割を知るため事前準備をしておくこと。臨床実習指導Ⅰでの学び、及び資料「実習の手引き」等を介して自らの実習目的・目標をもつこと。	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	□レポート　%	□定期試験　%	■その他　100　%
	基準等				以下を総合的に判断する。 ①実習前評価・口頭試問 ②実習報告会の評価点 ③実習後試験

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	臨床実習委員会編	「作業療法学専攻:臨床実習の手引き」第5版	大阪河﨑リハビリテーション大学	2020
参考図書		必要に応じて紹介する		

履修要件等	実習要件1）を満たしていること
オープンな教育リソース	

研究室	上島：1号館5階　第14研究室 増澤：1号館5階　共同研究室	オフィスアワー	上島：毎週木曜日　14:40～16:10 増澤：

科目№	FPS01-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	学習・認知心理学	担当教員 E-Mail	松尾　加代		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	心理学	必　修	2　単位	後　期（46h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	【学習心理学】学習心理学は行動に関する心理学である。行動は、経験や学習を通して形成される刺激に対する反応であり、消去や変容も可能である。行動はどのように学習されるのか、日常生活とどのように関連しているかについて概説する。 【認知心理学】認知心理学には、知覚・記憶・思考・意思決定など、頭の中で行われている情報処理に関する心理学である。目に見えない認知機能をどのように研究し、これまでにどのようなことが明らかになっているかについて概説する。
学修目標 到達目標	１．それぞれの領域で研究されている内容を理解する ２．日常生活において応用できるような技術を身につける
対面授業の進め方	講義形式で行う。配布資料は重要個所が空欄になっているので、学習者がその空欄を埋めることで資料を完成させる。毎講義後に、感想や質問の提出を求める。質問の回答および補足説明は、次の講義の最初に行う。
遠隔授業の進め方	やむを得ず遠隔授業になった場合は、Microsoft office 365 の Teams を使用して講義を実施する。講義終了後、指定された課題を提出する。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1. イントロダクション：学習心理学と認知心理学	復習：自分の言葉で内容をまとめる	
2. 単一刺激の学習	〃	
3. 古典的条件づけ（1）	〃	
4. 古典的条件づけ（2）	〃	
5. 古典的条件づけ（3）	〃	
6. オペラント条件づけ（1）	〃	
7. オペラント条件づけ（2）	〃	
8. オペラント条件づけ（3）	〃	
9. 技能学習	〃	
10. 社会的学習	〃	
11. 概念学習	〃	
12. 動機づけ	〃	
13. 知覚（1）	〃	
14. 知覚（2）	〃	
15. 顔の認知	〃	
16. 記憶（1）	〃	
17. 記憶（2）	〃	
18. 記憶（3）	〃	
19. メタ認知	〃	
20. 推論	〃	
21. 問題解決	〃	
22. 判断と意思決定	〃	
定 期 試 験		
23. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	■課題・小テスト 30%	□レポート　　%	■定期試験　70%	□その他　　%
	基準等	授業内課題を呈示する。		定期試験を実施する。授業の内容全般についての理解度を評価する。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	特に指定しない			
参考図書	山田弘幸	言語聴覚士のための心理学　第２版	医歯薬出版	2020
	仲真紀子　編著	いちばんはじめに読む心理学の本４ 認知心理学	ミネルヴァ書房	2010
履修要件等	特になし			
オープンな教育リソース				
研究室	１号館４階　第４研究室	オフィスアワー	毎週水曜日　16：20 ～ 17：50	

科目№	FSL01-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	音声学	担当教員 E-Mail	児島　その		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	音声言語聴覚医学	必　修	2　単位	後　期（60h）

教員の実務経験と授業内容の関連	
授業内容の要約	言語聴覚士の臨床に必要な音声の基本的なメカニズムと様々な事象について演習を交えながら概説する。国家試験対策により基礎知識の整理を行うとともに。臨床での実践例を多く紹介する。
学修目標 到達目標	1. 日本語音声の基本的な知識を習得し、国家試験問題を解くことができる。 2. 日本語音声について国際音声記号(IPA)に則した表記と構音の説明ができる。 3. 様々な音韻現象についてメカニズムを考察することができる。
対面授業の進め方	実際に音声を出して練習するなど、学生が主体的に学べるよう工夫する。適時、関連する国家試験問題について取り上げ、問題の形式や内容に早期から慣れておけるようにする。
遠隔授業の進め方	対面授業を原則とするが、必要に応じ teams を用いて授業の LIVE 配信による遠隔授業を行う。

授業計画	授業時間外に必要な学修　60 分以上
1. 音声学とは(音声学の諸分野)	復習：授業中に行った過去問の振り返り
2. 音声産生のメカニズム①(呼吸・発声・声帯運動)	復習：授業中に行った過去問の振り返り
3. 音声産生のメカニズム②(母音)	復習：プリント課題
4. 音声産生のメカニズム③(子音)	復習：授業中に行った過去問の振り返り
5. 音声産生のメカニズム④(フォルマント)	復習：授業中に行った過去問の振り返り
6. 音声知覚のメカニズム(聴覚入力の仕組み)	復習：プリント課題
7. 単音①IPA 概説	復習：授業中に行った過去問の振り返り
8. 単音②IPA 概説	復習：授業中に行った過去問の振り返り
9. 連続音(持続音と過渡音)	復習：プリント課題
10. 音韻現象①	復習：授業中に行った過去問の振り返り
11. 音韻現象②	復習：授業中に行った過去問の振り返り
12. 音韻現象③	復習：プリント課題
13. 音韻現象④	復習：授業中に行った過去問の振り返り
14. 音素・音節・モーラ	復習：授業中に行った過去問の振り返り
15. プロソディ	復習：プリント課題
16. 中間試験	復習：中間テストの振り返り
17. アクセントとイントネーション①	復習：授業中に行った過去問の振り返り
18. アクセントとイントネーション②	復習：プリント課題
19. 日本語に現れやすい音(異音)	復習：授業中に行った過去問の振り返り
20. 音声実現の阻害要因①	復習：授業中に行った過去問の振り返り
21. 音声実現の阻害要因②	復習：プリント課題
22. 音声と構音への臨床的アプローチ	復習：授業中に行った過去問の振り返り
23. 国家試験対策①	復習：プリント課題
24. 国家試験対策②	復習：プリント課題
25. 国家試験対策③	復習：プリント課題
26. 国家試験対策④	復習：プリント課題
27. 総復習①1~14 回までの講義内容総覧	復習：過去問とプリントの総復習

28. 総復習②16~26 回までの講義内容総覧	復習：過去問とプリントの総復習
定期試験(記述式問題およびマーク式問題)	
29. フィードバック(定期試験解説)①	
30. フィードバック(定期試験解説)②	

成績評価方法					
	項目	■課題＋中間試験(40%)	□レポート　　%	■定期試験(60%)	■その他　　%
	基準等	①プリント課題提出 ②中間試験(60%を 合格最低点とする)		①記述式問題 ②マーク式問題 (合計60 %を 合格最低点とする)	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
		なし		
参考図書	斎藤純男	「日本語音声学入門　改訂版」	三省堂	2006
履修要件等	なし			
研究室	1 号館 1 階　非常勤講師控室	オフィスアワー	授業終了後、質問等あればどうぞ。	

科目№	SDS01-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	言語聴覚障害概論Ⅰ	担当教員 E-Mail	塚本　能三		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	障害学総論	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	言語聴覚士として臨床経験のある教員が、その経験を生かして言語聴覚障害の概論を講義する。
授業内容の要約	言語聴覚障害の概略と言語聴覚士の職務内容、社会的責任を理解する。
学修目標 到達目標	1. 人間のコミュニケーションの特質が理解できる。 2. 言語聴覚障害学に関する基礎的理解ができる。 3. 医療従事者としての基本的態度を身につける。
対面授業の進め方	座学の他に一部実技も実施する。アクティブラーニングを通じてテーマに対する積極的な意見交換や意欲的・自主的な学習態度を養う。
遠隔授業の進め方	各講義に相当する教科書内容に沿った課題を毎回各受講者に送信する。各自がその課題に取り組んだ結果を期日までに担当教員に送信する。その送信内容で理解度を評価し、また各講義への出席とする。

授業計画		授業時間外に必要な学修	30分以上
1. 言語聴覚障害と言語聴覚士の役割	（教科書 p2～ 19）	教科書 p2～19 を予習しておく。	
2. 言語聴覚障害と言語聴覚士の役割と学問、教育	（教科書 p19～ 41）	講義内容を復習しノートにまとめる。	
3. 言語とコミュニケーション	（教科書 p43～ 52）	講義内容を復習しノートにまとめる。	
4. 言語とコミュニケーションとその生物学的基礎	（教科書 p54～ 86）	講義内容を復習しノートにまとめる。	
5. 言語聴覚障害の種類「失語症」	（教科書 p88～ 97）	講義内容を復習しノートにまとめる。	
6. 言語聴覚障害の種類「言語発達障害」	（教科書 p98～ 108）	講義内容を復習しノートにまとめる。	
7. 言語聴覚障害の種類「高次脳機能障害と認知症」	（教科書 p109～ 120）	講義内容を復習しノートにまとめる。	
8. 言語聴覚障害の種類「高次脳機能障害と認知症」	（教科書 p109～ 120）	講義内容を復習しノートにまとめる。	
9. 言語聴覚障害の種類「音声障害と吃音」	（教科書 p120～ 129・151～158）	講義内容を復習しノートにまとめる。	
10. 言語聴覚障害の種類「構音障害」	（教科書 p129～146）	講義内容を復習しノートにまとめる。	
11. 言語聴覚障害の種類「嚥下障害」	（教科書 p160～171）	講義内容を復習しノートにまとめる。	
12. 言語聴覚障害の種類「聴覚障害」	（教科書 p172～ 186）	講義内容を復習しノートにまとめる。	
13. 言語聴覚療法基本理念と ICF、とその他	（教科書 p188 ～ 203）	講義内容を復習しノートにまとめる。	
14. 言語聴覚士の職業倫理・関連法規について	（教科書 p206 ～ 221）	講義内容を復習しノートにまとめる。	
定 期 試 験 （期末レポート）			
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		講義内容の復習	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　30%	□レポート　　%	■定期試験　60%	□その他　10%
	基準等	確認テストを毎回実施する。		講義中に配布する資料の内容から出題し理解度を評価する。	授業態度など

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	藤田郁代　監修	標準言語聴覚障害学　言語聴覚障害学概論 第2版	医学書院	2019
参考図書	毛束真知子	絵でわかる言語障害　第2版	学研メディカル秀潤社	2013
履修要件等	無し			

オープンな 教育リソース			
研究室	１号館１階　言語聴覚学専攻長室	オフィスアワー	毎週水曜日　14：40～16：10

科目№	SDS02-1R	授業形態	講義	開講年次	1年次
授業科目名	言語聴覚障害概論Ⅱ	担当教員 E-Mail	塚本　能三　/　言語聴覚学専攻教員		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	障害学総論	必　修	1　単位	後　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	言語聴覚士として臨床経験のある各教員が分担して言語聴覚障害各分野の概論を講義する。
授業内容の要約	・言語聴覚障害および摂食嚥下障害とそのリハビリテーションについての概要を学ぶ。 ・言語聴覚障害のある方や家族とどのように関わるか、関連職種とどのように連携するかなど、今後の臨床活動の基本的な考え方を学ぶ。
学修目標 到達目標	1.　言語聴覚障害および摂食嚥下障害とそのリハビリテーションについての概要を理解する。 2.　言語聴覚障害のある方の生活・心理・社会状況について理解する。 3.　臨床活動全般に必要な配慮や基礎的知識を習得する。
対面授業の進め方	・言語聴覚学専攻の教員が各自の専門分野を分担して講義する。 ・今後、上位学年での更に高度な専門各分野の学習を進めていく為に必要な基礎的知識、基本的視点を確実に習得されることを期待する。
遠隔授業の進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、リアルタイムの双方向通信授業を行う。 通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30分以上
1.　小児聴覚障害1【廣瀬】（教科書 p349 ～ 356）	復習しノートへまとめる。	
2.　小児聴覚障害2【廣瀬】（教科書 p328～331）	復習しノートへまとめる。	
3.　成人聴覚障害1【馬屋原】（教科書 p357 ～ 362）	復習しノートへまとめる。	
4.　成人聴覚障害2視覚聴覚二重障害【馬屋原】（教科書 p 362 ～ 364）	復習しノートへまとめる。	
5.　言語発達障害（発達障害）【髙橋】（教科書 p291 ～ 306）	復習しノートへまとめる。	
6.　言語発達障害（脳性麻痺、重複障害）（教科書 p307 ～ 317） 拡大･代替コミュニケーション･特別支援教育（教科書 p 305, 316, 289）【非常勤講師】	復習しノートへまとめる。	
7.　小児構音障害【髙橋】（教科書 p377 ～ 385）	復習しノートへまとめる。	
8.音声障害・成人構音障害【上田】（教科書 p366 ～ 376）	復習しノートへまとめる。	
9.　嚥下障害（成人）【和田】（教科書 p404 ～ 419）	復習しノートへまとめる。	
10.　嚥下障害（小児）【非常勤講師】（教科書 p404 ～ 419）	復習しノートへまとめる。	
11.　高次脳機能障害【上田】（教科書 p275 ～ 290）	復習しノートへまとめる。	
12.　高次脳機能障害【上田】（教科書 p275 ～ 290）		
13.　失語【塚本】（教科書 p259 ～ 274）	復習しノートへまとめる。	
14.　失語【塚本】（教科書 p259 ～ 274）		
定 期 試 験　（期 末 レ ポ ー ト）		
15.　総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）【塚本】	講義内容の復習	

成績評価方法	項目	□課題・小テスト　%	□レポート　%	■定期試験　100%	□その他%
	基準等			各分野担当教員が分担し各々の講義内容に沿った問題を出題する。	

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	大森孝一　ほか	「言語聴覚士テキスト　第3版」	医歯薬出版	2018
参考図書	毛束真知子	「絵でわかる言語障害　第2版」	学研メディカル秀潤社	2013

履修要件等	言語聴覚障害概論Ｉが履修済みであることが望ましい。		
オープンな 教育リソース			
研究室	１号館１階　言語聴覚学専攻長室	オフィスアワー	毎週水曜日　14：40〜16：10

科目№	SHD01-1R	授業形態	演習	開講年次	１年次
授業科目名	聴覚検査法（含演習）	担当教員 E-Mail	馬屋原　邦博		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	聴覚障害	必　修	1　単位	後　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	障害者福祉施設で言語聴覚士として勤務した経験から、各種聴覚検査法について授業を行う。
授業内容の要約	聴覚障害の障害状況を把握するために臨床で使われている検査法を知り、実際に使えるように技術を身に付ける。
学修目標 到達目標	1. 標準純音聴力検査が実施できる 2. 語音聴力検査が実施できる 3. その他の主な聴覚検査が実施できる
対面授業の進め方	各検査についての講義および検査機器を扱いながら各種検査の実技を行う。
遠隔授業の進め方	

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 耳の構造と機能、難聴について（教科書 pp.2～33）	教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること
2. 音の基礎知識、オージオメーターとその構造、保守、点検、および取扱い（教科書 pp.34～43）	教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること
3. 標準純音聴力検査 （1）（気導聴力検査）（教科書pp.46～53）	教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること
4. 標準純音聴力検査 （2）（気導聴力検査）（教科書pp. 46～53）	教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること
5. マスキングについて（教科書pp.56～62）	教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること
6. 標準純音聴力検査（3）（骨導聴力検査）（教科書pp.54～56）	教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること
7. 標準純音聴力検査（4）（まとめ）	教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること
8. 自記オージオメトリー（教科書pp.63～69）	教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること
9. 閾値上聴力検査（SISI）（教科書pp.70～76）	教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること
10. 語音聴力検査（1）（語音了解閾値検査）（教科書pp.77～88）	教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること
11. 語音聴力検査（2）（語音弁別検査）（教科書pp.89～92）	教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること
12. インピーダンス･オージオメトリー（教科書pp.93～103）	教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること
13. 聴性誘発反応―他覚的聴力検査（教科書pp.119～138）	教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること
14. 乳幼児聴力検査（教科書pp.139～152）	教科書及び配布資料で復習および次回の範囲の予習をすること

定 期 試 験					
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）					
成績評価方法	項目	□課題・小テスト　　%	□レポート　　%	■定期試験　100%	□その他　　%
	基準等			筆記試験で授業内容全般についての理解度を評価する。	

	著者	タイトル	出版社	発行年
教科書	原晃　監修	「聴覚検査の実際　第５版」	南山堂	2024
参考図書	大森孝一　他	「言語聴覚士テキスト　第３版」	医歯薬出版	2018
履修要件等				
オープンな教育リソース				
研究室	１号館５階 第19研究室	オフィスアワー	毎週水曜日　12：10～13：00	

科目№	SCP01-1R	授業形態	演習	開講年次	1年次
授業科目名	臨床ゼミⅠ（ST）	担当教員 E-Mail	和田　英嗣・松尾　加代 言語聴覚学専攻教員		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習	必　修	1　単位	前　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	病院や施設等において実務経験のある言語聴覚士の授業により、臨床における基本的な考え方と知識・技術を身に付けさせる。
授業内容の要約	本学のディプロマ・ポリシーである「豊かなコミュニケーション能力と人間性のもと、関連職種と連携し、チーム医療を推進することができる」を身につけるため、関連施設見学を通して言語聴覚士・理学療法士・作業療法士の業務内容および職域の概要を知る。見学した内容を踏まえてリハビリテーションについて考察し発表する。
学修目標 到達目標	1. グループ活動において積極的にコミュニケーションをとることができる 2. レポートや課題など、文章の作成ができる 3. 適切なプレゼンテーションをすることができる 4. 言語聴覚士の職域を説明することができる
対面授業の進め方	2年生以降の臨床実習に活かせるように、積極的にグループワークに参画し、学ぶことが望まれる。発表を通して自分の意見を伝達し、質疑応答など学生同士で討論していく。
遠隔授業の進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30分以上
1. 合同セミナーを通じて、学生間のつながりをつくる	各グループで内容の構成や準備を行う
2. オリエンテーション、自己紹介	オリエンテーションの内容を振り返る
3. 客観と主観：文章を読む	客観と主観：文章を読むについて復習する
4. 客観と主観：写真を観察する	客観と主観：写真を観察するについて復習する
5. 集団活動（体育祭等）を通じた学生間連携・チームワーク	チームワークについて振り返る
6. 客観と主観：文章を書く	客観と主観：文章を書くについて復習する
7. 合同グループワーク	合同グループワークについて振り返る
8. 発表の準備	発表の準備について復習する
9. コミュニケーションについて	コミュニケーションについて復習する
10. 言語聴覚士という仕事について	言語聴覚士という仕事について復習する
11. 言語聴覚士の評価について	言語聴覚士の評価について復習する
12. 言語聴覚士の therapy について	言語聴覚士の therapy について復習する
13. 発表①	発表について振り返る
14. 発表②	発表について振り返る
定期試験（期末レポート）	
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）	

成績評価方法	項目	■課題・レポート　40%	■発表　50%	□定期試験　%	■その他　10%
	基準等	授業内で課題を行い、授業の内容についての理解度を評価する。	STについてのプレゼンを評価する。	定期試験を実施しないため、発表の達成度によって成績が判定される。	出席の有無や授業中の積極的な参加について評価する。

<table>
<tr><td rowspan="2">教科書</td><td>著者</td><td>タイトル</td><td colspan="2">出版社</td><td>発行年</td></tr>
<tr><td>特に指定しない</td><td></td><td colspan="2"></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">参考図書</td><td></td><td>関連施設見学の手引き</td><td colspan="2">大阪河﨑ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ大学</td><td>2023</td></tr>
<tr><td>藤田郁代　監修</td><td>標準言語聴覚障害学　言語聴覚障害学概論　第２版</td><td colspan="2">医学書院</td><td>2019</td></tr>
<tr><td>履修要件等</td><td colspan="5">この科目の単位を修得しないと、臨床実習概論の履修は認められない。</td></tr>
<tr><td>オープンな
教育リソース</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>研究室</td><td colspan="2">和田：１号館５階 第１共同研究室
松尾：１号館４階 第４研究室</td><td>オフィスアワー</td><td colspan="2">和田：毎週火曜日 10：40 ～ 12：10
松尾：毎週水曜日 16：20 ～ 17：50</td></tr>
</table>

科目№	SCP03-1R	授業形態	演習	開講年次	１年次
授業科目名	臨床実習指導Ⅰ（ST）	担当教員 E-Mail	和田　英嗣・松尾　加代 言語聴覚学専攻教員		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習	必　修	１　単位	後　期（30h）

教員の実務経験と授業内容の関連	病院や施設等において実務経験のある言語聴覚士の授業により、臨床における基本的考え方と文章能力の必要性、能力を身に付けさせる。
授業内容の要約	本学のディプロマ・ポリシーである「医療の高度化や変化する時代に対応し、医療従事者として、生涯にわたり、知識や技能を研鑽することができる」を身につけるため、コミュニケーション力と臨床における観察の技術向上に努める。また ST の役割について理解する。
学修目標 到達目標	1. グループワークを通して他者の意見を取り入れ、自己の意見の主張できる 2. 基礎的な文章読解および文章表現（まとめ、考察）ができる 3. ST の役割について理解し、臨床における観察結果を記録することができる 4. 対象者が理解しやすい声の大きさや話し方ができる
対面授業の進め方	2 年生以降の臨床実習を意識して、積極的にグループワークに参画し、学ぶことが望まれる。 グループワークを通して自分の意見を伝達し、質疑応答など学生同士で討論していく。
遠隔授業の進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。

授業計画	授業時間外に必要な学修	30 分以上
1. オリエンテーション、観察力を鍛えよう	観察力を鍛えようについて振り返る	
2. 観察ケース１（宿題としてレポート課題）	観察ケース１について振り返る	
3. 観察ケース２（宿題としてレポート課題）	観察ケース２について振り返る	
4. ケース２を考える	ケース２を考えるについて振り返る	
5. 観察ケース３（宿題としてレポート課題）	観察ケース３について振り返る	
6. ケース３を考える	ケース３を考えるについて振り返る	
7. 合同グループワーク	合同グループワークについて振り返る	
8. 実習日誌の書き方	実習日誌の書き方について振り返る	
9. 動画視聴①（失語症①）：課題として実習日誌を作成	動画視聴①について振り返る	
10. 動画視聴②（失語症②）：課題として実習日誌を作成	動画視聴②について振り返る	
11. 動画視聴③（構音障害①）：課題として実習日誌を作成	動画視聴③について振り返る	
12. 動画視聴④（構音障害②）：課題として実習日誌を作成	動画視聴④について振り返る	
13. １年間で学んだことの発表①	発表①について振り返る	
14. １年間で学んだことの発表②	発表②について振り返る	
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）		
15. 総括及びフィードバック（定期試験の講評・解説）		

成績評価方法	項目	■課題・レポート　40%	■レポート　50　%	□定期試験　　%	■その他　　10%
	基準等	レポートや課題を行い評価する。	発表を行い、課題を評価する。	定期試験を実施しないため、課題の達成度によって成績が判定される。	出席の有無や授業中の積極的な参加について評価する。

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
		特に無し		
参考図書	大森孝一 他	言語聴覚士テキスト 第３版	医歯薬出版	2018

履修要件等	この科目の単位を修得しないと、臨床実習概論の履修は認められない。		
オープンな 教育リソース			
研究室	和田：1 号館 5 階 第 1 共同研究室 松尾：1 号館 4 階 第 4 研究室	オフィスアワー	和田：毎週火曜日 10：40 ～ 12：10 松尾：毎週水曜日 16：20 ～ 17：50

科目№	SCP06-1R	授業形態	演習	開講年次	１年次
授業科目名	臨床実習概論（含演習）	担当教員 E-Mail	和田　英嗣・髙橋　泰子		

基本項目	専　攻	科　目　区　分	単　位　数		履修期間
	言語聴覚学	臨床実習	必　修	1　単位	後　期（16h）

教員の実務経験と授業内容の関連	臨床経験のある言語聴覚士の授業により、臨床における基本的考え方と能力を指導する。
授業内容の要約	本学のディプロマ・ポリシーである「対象児・者の心理的、社会的背景にも配慮でき、課題の発見・解決に向けて、不断の努力できる」を身につけるため、下記の内容で進める。 ・定型発達を知ることにより、発達に障がいを持つ子どもへの支援の在り方を学ぶ ・小児の発達支援施設における役割、多職種間の連携のあり方を知る
学修目標 到達目標	1. 定型発達の子どもの成長過程が説明できる 2. 保育所、児童福祉施設の役割を説明することができる 3. 支援者が発達障がい児に実施する評価・訓練の観察ができる
対面授業の進め方	参加型の見学実習 これまで習ったことを理解した上で子どもや支援者を観察する。観察するときは、業務の支障にならないように、そして社会人としての基本的態度に則って臨む。
遠隔授業の進め方	Microsoft office365 の Teams を使用し、双方向通信の授業を行う。通信の不具合等で参加できない場合は後日録画された動画を視聴し、内容についての課題を実施することで出席とする。

授業計画	授業時間外に必要な学修　30 分以上
1. 子どもの発達心理学	子どもの発達心理について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
2. 保育所見学のオリエンテーション	保育所について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
3. 保育所見学の発表準備	グループごとで討論し発表準備を行う。
4. 保育所の見学・参加（0～2 歳児）	見学した内容をレポートとしてまとめる。
5. 保育所の見学・参加（3～5 歳児）	見学した内容をレポートにまとめる。
6. 発達障害について	発達障害について事前に調べておく。授業後にノートにまとめる。
7. 児童福祉施設の見学（療育場面）	見学した内容をレポートとしてまとめる。
定 期 試 験 （期 末 レ ポ ー ト）	
8. 総括及びフィードバック（レポートの講評・解説）	

成績評価方法	項目	□小テスト　　%	■レポート　80%	□定期試験　　%	■その他　20%
	基準等		見学した内容をレポートの書き方に沿って記載できるかを評価する。		出席の有無や授業中の積極的な参加について評価する。

教科書	著者	タイトル	出版社	発行年
	指定なし			
参考図書				

履修要件等	実習要件 1）を満たしていること
オープンな教育リソース	

研究室	和田：1 号館 5 階 第 1 共同研究室 髙橋：1 号館 5 階 第 17 研究室	オフィスアワー	和田：毎週火曜日　10：40～12：10 髙橋：毎週水曜日　12：10～13：00